

# 埋蔵文化財センター 20 年の歩み



2020 年  
10/27 (火) → 12/20 (日)

## 目 次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ごあいさつ                       | 1  |
| 沖縄県立埋蔵文化財センターの設立と役割         | 2  |
| 沖縄県立埋蔵文化財センターの沿革            | 5  |
| 沖縄県立埋蔵文化財センターの発掘調査          | 6  |
| ・首里城跡                       | 12 |
| ・中城御殿跡（県立博物館跡地）             | 19 |
| ・首里高校内埋蔵文化財                 | 23 |
| ・東村跡                        | 27 |
| ・普天間飛行場内の文化財分布調査            | 28 |
| <b>Column① 環境補足協定と文化財調査</b> | 30 |
| ・普天間古集落ほか                   | 32 |
| ・西普天間住宅地区試掘確認調査             | 36 |
| ・慶良間諸島の遺跡詳細分布調査             | 38 |
| ・白保竿根田原洞穴遺跡                 | 40 |
| ・宮国元島上方古墓群                  | 44 |
| <b>Column② 資料整理・報告書刊行</b>   | 45 |
| <b>Column③ 遺物の保管と活用</b>     | 45 |
| <b>Column④ 出土遺物保存処理</b>     | 47 |
| <b>Column⑤ 震災派遣</b>         | 48 |
| 普及事業                        | 50 |

### 凡例

1. 本図録は、「沖縄県立埋蔵文化財センター開所 20 周年記念展 埋蔵文化財センター 20 年の歩み」（開催期間：令和 2（2020）年 10 月 27 日から 12 月 20 日）の展示を補完するものとして作成しました。
2. 展示及び図録の企画・編集は大城妃左緒・貝志堅清大が行い、図録の原稿執筆は、中山晋・大城妃左緒・片桐千亜紀・知念隆博・金城貴子・貝志堅清大・亀島慎吾・田村薰が担当しました。執筆分担は各項目の文末に表記し、表記のない箇所は貝志堅が執筆しました。
3. 文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権（発行者）の承諾を得ずとも、本図録を複製して利用できます。ただし、利用にあたっては、出典を明記して下さい。

## ごあいさつ

海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた沖縄県には貝塚、グスク、集落跡や近世古墓群など約4,700箇所の遺跡があります。

去る大戦で、首里城をはじめとする多くの文化財が焼失し、破壊されましたが、幸いにも国内外に現存する文献史料等のほかに、戦災を免れた遺跡が地中や海底に眠る埋蔵文化財として数多く残されました。沖縄県立埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の発掘調査や研究を行い、出土品の整理・保管を適切に行うとともに、県民にその普及・啓発を図ることを目的として、平成12年4月1日、西原町に開所いたしました。

今回の企画展「沖縄県立埋蔵文化財センター開所20周年記念展 埋蔵文化財センター20年の歩み」では、当センター設立20周年を記念し、沖縄本島及び周辺離島をはじめ、宮古・八重山諸島を含む県内全域に及ぶ発掘調査成果のなかから、直近10年間の主な発掘調査成果を紹介します。

中でも、今回展示する「首里城跡」や、「首里高校内埋蔵文化財」、「中城御殿跡（県立博物館跡地）」、「東村跡」などの発掘調査成果からは、琉球王国の繁栄の様子や往時の暮らししきりが伺えます。令和2年3月に国史跡に指定された「白保竿根田原洞穴遺跡」の発掘調査成果は、先島諸島はもとより、日本列島へ渡ってきた人たちの経路や、人類学的・文化的な系譜を解明できる可能性を有し、見どころの一つとなっております。

そして普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧などの米軍基地内の発掘調査では、縄文時代から近世～近代にかけての先人達の生活や交流の様子を示す遺構や遺物が見つかっており、大変興味深いものがあります。

また発掘調査成果の紹介と合わせて、資料整理・報告書刊行や出土遺物保存処理、東日本大震災・平成28年熊本地震に伴う被災地への職員派遣、普及活用事業についてもご紹介します。

この機会に、当センターの発掘調査と考古学的見地から検証された成果をご覧いただくとともに、先人達が歩んできた歴史に思いを馳せ、本県の魅力やその価値を尚一層実感していただければ幸いです。

令和2年10月27日

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 瑞慶覧 勝利

# 沖縄県立埋蔵文化財センターの設立と役割

## 沖縄県立埋蔵文化財センター設立に至る経緯

沖縄県立埋蔵文化財センターの設置以前は、沖縄県教育庁文化課の資料室（那覇市首里大中町の首里資料室、同市若狭町の若狭資料室、糸満市字兼城の兼城資料室。以下「三施設」と標記する。）において、分散された状態で資料整理及び出土品の収蔵・管理などをおこなっていました。

昭和 47（1972）年5月 15 日の本土復帰前は、旧県立博物館の敷地内に琉球政府文化財保護委員会（後の首里資料室）があり、文化財保護委員会による調査や研究者による発掘調査と資料整理などがおこなわれていたようです。

本土復帰直後から海洋博覧会プロジェクトなどの大規模事業や大型開発が始まり、開発に伴う緊急発掘調査が急増しました。これに伴い首里資料室も出土品を収納できなくなり、打開策として昭和 55（1980）年に糸満市兼城にあった県立養護学校の跡地を利用して兼城資料室が設置され出土品の収蔵と管理をおこなっていました。翌年の昭和 56（1981）年には那覇市若狭町の県有地に若狭資料室が設置され、資料整理と出土品の収蔵を行っていましたが、昭和 58～60（1983～85）年度迄の3カ年間に亘って沖縄自動車道（石川～那覇間）建設工事に係るうるま市石川の古我地原貝塚ほか5遺跡の緊急発掘調査の実施と昭和 60（1985）年度から始まった国指定史跡首里城正殿跡の遺構確認調査などにより、首里資料室・若狭資料室も瞬く間に出土品で飽和状態となり、首里資料室の空き地に仮設の収蔵施設を設置して資料整理と収蔵を行っていました。

最終的には兼城資料室も出土品の収蔵・管理以外に資料整理もおこなっていましたが、そこも出土品で満杯となり、一時的に未整理のものは三施設とも屋外でのコンテナや土嚢袋を積み重ね、ブルーシートで覆って保管するという状況でした。そのため、出土品資料の整理・収蔵・保管などを集中的に、且つ効率よく管理できる施設の必要性が高まりました。

## 沖縄県立埋蔵文化財センター設立までの経過

沖縄県教育委員会では、先述した文化課資料室の問題から、昭和 52～54（1977～79）年度に沖縄県立総合文化センターの一機能として「考古民俗資料館」を設置することについて、審議委員会のもと検討を行いました。沖縄海洋博覧会記念公園内旧国際 1 号館を考古民俗資料館として活用することとし、考古部門の業務を以下のように挙げており、当時から埋蔵文化財センターとしての構想がありました。

（ア）南島考古を学問的に体系化する研究機関とする。（イ）文化課と提携して、発掘調査を主体的に実施する機関となる。（ウ）発掘した出土物の体系的収納施設とする。（エ）遺物の科学的保存処理を行う。（オ）資料を展示して一般公開し、同時に教育普及活動を行う。（カ）屋外展示として、復元家屋や特徴的遺構のレプリカを配して一般公開に供する。

しかし、その後の昭和 55(1980) 年度の答申検討委員会により、展示スペースやアクセス・改修費・維持費などの観点から適当ではないと結論づけられ、設立を見送られています。

その後、県立埋蔵文化財センターの設置に向けて、平成元～2(1989～1990) 年度に設置場所の調査を実施し、平成 3(1991) 年度に北谷町を建設用地の候補としました。平成 4(1992) 年 9 月に県立埋蔵文化財調査センター（仮称）基本構想検討委員会を設置し、建設年度・設置や運営形態・設置場所等、全般にわたって検討課題が提起されました。平成 5～6(1993～1994) 年には、県立埋蔵文化財調査センター（仮称）基本計画検討委員会が設置され、基本計画の作成・用地所得・基本設計等について検討されました。設置場所について、当初は北谷町を候補としていましたが、平成 6(1994) 年 7 月に西原町の沖縄県消防学校跡地を用地にすることとなりました。

平成 6(1994) 年 10 月に「沖縄県立埋蔵文化財調査センター（仮称）建設基本計画」が策定され、平成 7(1997) 年 3 月に基本設計、同年 11 月に実施設計が完了しました。平成 10(1998) 年 10 月に建設工事着工、平成 11(2000) 年 10 月に建設工事竣工、同年 12 月に名称は「沖縄県立埋蔵文化財センター」に決定され、平成 12(2000) 年 4 月 1 日に開所しました。

## 沖縄県立埋蔵文化財センターの設置目的と業務

当センターは、「埋蔵文化財（出土品を含む。以下同じ。）の調査研究及び保存を行うとともに、その活用を図り、教育、学術及び文化の発展に資する（沖縄県立教育機関設置条例第 3 条の 1 より抜粋）」ために設置されました。当センターの開所により発掘調査、資料整理・出土品の収蔵・保管・管理・公開に至る全ての業務がセンターに集約され一元的に効率よく実施できるようになりました。センターの業務内容は、以下の通りです。

- ① 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
- ② 埋蔵文化財及び埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び活用に関すること。
- ③ 埋蔵文化財に関する知識の普及に関すること。
- ④ 埋蔵文化財の調査に関する指導及び研修に関すること。

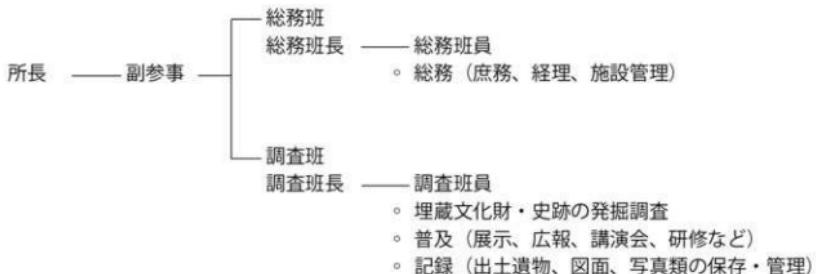
（沖縄県立教育機関設置条例第 3 条の 2 より抜粋）

## 組織・体制

埋蔵文化財センターが開所した平成 12(2000) 年度は、初代所長に知念勇（文化課副参事）が発令され、所長以下は庶務課と調査課の 2 課体制で、副所長は庶務課長を兼任し、庶務課員 2 名、調査課長・調査課員 9 名の計 14 名（非常勤職員を除く）で業務が開始されました。当初の調査課は、専門員 1 名と指導主事（教員） 3 名、主事 1 名、臨時の任用専門員 4 名の体制でした。翌年の平成 13～14(2001～2002) 年度に専門員が 6 名採用され、その後は調査体制整備のために専門員が順次採用されました。

平成 20(2008) 年度には総務班と調査班の 2 班体制となりました。その後も増加する事業対応として専門員が順次採用されるとともに総務班員の配置も増え、令和 2(2020) 年度現在の人員は所長・副参事・総務班長・調査班長・総務班員 5 名、調査班員 13 名の計 22 名（再任用職員・非常勤職員を除く）となっています。

## 【組織内部の構成一覧】



## 【人員体制一覧（職員数）】

| 年度         | 所長 | 副参事 | 総務班長 | 総務班員 | 調査班長 | 調査班員 | 合計 |
|------------|----|-----|------|------|------|------|----|
| 平成12（2000） | 1  |     | 1    | 2    | 1    | 9    | 14 |
| 平成13（2001） | 1  |     | 1    | 2    | 1    | 11   | 16 |
| 平成14（2002） | 1  |     | 1    | 2    | 1    | 11   | 16 |
| 平成15（2003） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 11   | 17 |
| 平成16（2004） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 11   | 17 |
| 平成17（2005） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 11   | 17 |
| 平成18（2006） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成19（2007） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成20（2008） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成21（2009） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成22（2010） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成23（2011） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 10   | 16 |
| 平成24（2012） | 1  |     | 1    | 3    | 1    | 12   | 18 |
| 平成25（2013） | 1  | 1   | 1    | 3    | 1    | 12   | 19 |
| 平成26（2014） | 1  | 1   | 1    | 4    | 1    | 12   | 20 |
| 平成27（2015） | 1  | 1   | 1    | 4    | 1    | 12   | 20 |
| 平成28（2016） | 1  | 1   | 1    | 4    | 1    | 13   | 21 |
| 平成29（2017） | 1  | 1   | 1    | 4    | 1    | 13   | 21 |
| 平成30（2018） | 1  |     | 1    | 6    | 1    | 13   | 22 |
| 令和元（2019）  | 1  | 1   | 1    | 6    | 1    | 13   | 23 |
| 令和2（2020）  | 1  | 1   | 1    | 5    | 1    | 13   | 22 |

注1 所長：平成19～21・30年度は参事兼務。

注2 総務班長：平成12～19年度は副所長兼庶務課長。

注3 調査班長：平成12～19年度は調査課長。

注4 平成12～19年度は庶務課・調査課、平成20年度以降は総務班・調査班。

注5 再任用職員は含まない。

# 沖縄県立埋蔵文化財センターの沿革

- 平成 12(2000) 年 4月 沖縄県立埋蔵文化財センター開所。所長以下は庶務課と調査課の2課体制で副所長は庶務課長を兼任し、庶務課員2名、調査課長・調査課員9名の計14名（非常勤職員を除く）で業務開始。  
6月 「沖縄県首里城京の内跡出土陶磁器 518 点 附 金属製品・ガラス玉一括」が国の重要文化財（考古資料）に指定される。  
12月 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録される。
- 平成 13(2001) 年 3月 重要文化財指定記念として、特別企画展「沖縄県首里城京の内斎 - 貿易陶磁から見た大交易時代 - 」を開催  
4月 調査課専門員3名採用
- 平成 14(2002) 年 2月 世界遺産登録記念として、「世界遺産展～出土品からみた琉球王国のグスク～」を開催  
4月 調査課専門員3名採用
- 平成 16(2004) 年 4月 沖縄県内全域の遺跡分布地図情報システム（GIS）をセンターHPで公開
- 平成 20(2008) 年 4月 班制の導入により総務班・調査班の2班体制に改組  
4月 開所10年を迎える。調査班専門員2名採用
- 平成 22(2010) 年 8月 遺跡分布地図情報システム（GIS）を、沖縄県HP「沖縄県公開用地図情報システム」による公開へ移行  
10月 センター開所10年を記念し、企画展「10周年展～埋文センター10年の歩み～」を開催
- 平成 23(2011) 年 12月 「古我地原貝塚出土品 234 点」「下田原貝塚出土品 209 点」が沖縄県指定有形文化財（考古資料）に指定される。
- 平成 24(2012) 年 2月 沖縄県有形文化財（考古資料）指定記念として、「古我地原貝塚・下田原貝塚出土品展」を開催
- 平成 25(2013) 年 4月 東日本大震災復興支援のため福島県へ職員派遣  
調査班専門員3名採用
- 平成 26(2014) 年 4月 東日本大震災復興支援のため福島県へ職員派遣
- 平成 27(2015) 年 4月 東日本大震災復興支援のため岩手県へ職員派遣  
4月 調査班専門員3名採用
- 平成 28(2016) 年 4月 調査班専門員2名採用
- 平成 30(2018) 年 4月 調査班専門員2名採用
- 平成 31(2019) 年 4月 平成28年熊本地震に伴う復興支援のため熊本市へ職員派遣  
調査班専門員1名採用
- 令和2(2020) 年 2月 令和元年10月に発生した首里城火災による正殿を含む建物跡の焼失を受け  
て、特別企画展「首里城正殿跡出土品展」を開催  
4月 開所20年を迎える。

# 沖縄県立埋蔵文化財センターの発掘調査

## 沖縄県立埋蔵文化財センターと文化財保護

土器や石器、陶磁器などの遺物、住居跡、墓、城壁などの遺構のほとんどは地下に埋もれていますことから、「埋蔵文化財」と呼ばれています。この埋蔵文化財を発掘することで、昔の人々の生活や社会のようす、文化の特徴とその広がりや他の地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどを知ることができます。埋蔵文化財の取り扱いについては、「文化財保護法」で決められています。

発掘調査は、その目的から大きく二つに分けられます。ひとつは、大学や研究機関などによる学術研究を目的とした発掘調査があげられます。

もうひとつは、行政機関が行政上の目的で行う発掘調査です。道路整備・建物建築などの開発事業により、どうしても現状で保存できない埋蔵文化財の内容を記録保存するための発掘調査、重要な遺跡の史跡指定あるいは史跡の整備・活用を図るための発掘調査があげられます。

また、分布調査と試掘・確認調査は、遺跡の所在や範囲を把握することを目的として行う発掘調査です。記録保存の発掘調査を行う際の範囲や期間・経費などを算定するために必要なものとなっています。

当センターは、行政目的の発掘調査を行う機関として、これまでに沖縄県全域で発掘調査を実施してきました。特に、開発に伴う記録保存のための発掘調査では、調査によって遺跡自体が失われてしまうため、適切な発掘調査を行う必要があります。発掘調査によって得られた成果は、発掘調査現場での現地説明会をはじめ、発掘調査速報展、企画展などで公開するとともに、団体見学や体験学習、出前授業といった教育普及にも活用されています。

## 開所後10年の主な発掘調査

平成12(2000)年度の開所から平成22(2010)年度までの10年間に行われた主な発掘調査を振り返ると、まず首里城跡や円覚寺など周辺遺跡の調査が挙げられます。首里城跡および首里城公園復元整備に伴うものです。首里城跡の調査では、城郭の石積みをはじめとして、建物の基壇や階段・石垣・シリ遺構(御内原地区)、庭園(書院・鎖之間地区)、門の根石と石敷き(淑順門地区)といった遺構が確認され、遺物は琉球王国の中心であったことを示す中国・東南アジア・高麗・日本からもたらされた陶磁器や金属製品など数多くの優品が出土しています。現在は、発掘調査成果や絵図・古地図などをもとに建物復元や公園整備がなされています。

続いて米軍基地内での発掘調査では、新城下原第二遺跡(キャンプ瑞慶覧内)の記録保存発掘調査で、米軍基地であったが故に遺跡が良好に残存しており、縄文時代前期の爪形文土器期の貝塚から弥生並行時代のイモガイ集積、グスク時代の水田跡といった遺構や遺物が確認され、先史時代から近代までの土地利用の移りわりが分かりました。後兼久原遺跡(キャンプ桑江北側返還跡地)の調査ではグスク時代初期の集落の様子が明らかとなりました。

沖縄本島周辺離島の調査として、伊是名村具志川島遺跡群は、縄文時代の崖葬墓が確認された重要な遺跡群で、自然崩壊が進んでいる箇所の保護と保存活用を図るための調査が行われました。

宮古・八重山諸島の調査は、宮古島では新里元島上方台地遺跡や尻並遺跡の調査で中世から近世の集落跡が確認されました。石垣島の新石垣空港建設に伴う嘉良嶽 東貝塚・嘉良嶽東方古墓群の発掘調査では、地震による地割れと津波堆積物が検出され、八重山諸島一帯を襲った自然災害の痕跡が確認されました。与那国島では嘉田地区古墓群、潮原古墓群などの調査を行いました。

分布調査は、普天間飛行場を中心とした基地内（基地内文化財分布調査）をはじめ、新大学院大学建設予定地内、新石垣空港予定地内、沿岸地域といったある一定の地域で行うものと、戦争遺跡といった対象を絞った調査があります。

基地内文化財分布調査は、普天間飛行場の返還に先立って埋蔵文化財を把握するための試掘調査を平成11（1999）年度から実施しており、平成13（2001）年度からは県と宜野湾市が共同で実施し、返還前に実施可能な約1,500箇所については平成22（2010）年度に終了しました。

沿岸地域遺跡分布調査は、県内の水中遺跡・沿岸遺跡の分布を把握することを目的として、平成16～21（2004～2009）年度にかけて沖縄県内全域を調査し、143ヶ所の水中遺跡・沿岸遺跡を確認しました。

戦争遺跡詳細分布調査は、戦争遺跡の実態を把握するため平成10～17（1998～2005）年度にかけて県内全域の分布調査を行い、979ヶ所の所在を確認しました。

また、市町村教育委員会の発掘調査への指導・協力も行っており、本部町アンチの上貝塚や大宜味村大保川上流域の生産遺跡群などの調査があげられます。

## 開所後10年から20年の主な発掘調査

開所10年を迎えた平成22（2010）年度以降も、沖縄本島内では首里城跡とその周辺遺跡の調査が継続的に行われました。首里城跡の調査では、石積みや階段などの遺構をはじめ、御嶽イビから金製厭勝銭出土、留魂壙の発見など多くの調査成果が得られています。中城御殿は次期国王となる王子の屋敷跡で、明治8（1875）年に現在の首里高校内から県立博物館跡地に移転したことによって二つ存在し、県立博物館跡地の中城御殿跡では、復元整備のための遺構確認調査を平成19～令和元（2007～2019）年度まで実施しました。調査では、建物の基壇と石畳、庭園、石積み、階段などの遺構が良好に遺されていることがわかつたとともに、戦時中に避難させたと思われる漆塗りの位牌、まとめて廃棄された金属製品など、中城御殿に関連する遺物が出土しています。

首里高校敷地内には中城御殿跡のほか櫻園跡、大美御殿、浦添按司屋敷跡などがあり、校舎改築に伴う発掘調査では、井戸と洗い場が一緒になった水場遺構、屋敷内の石垣、まとめて捨てられた食器類など、当時の中城御殿で使用されていた多くの遺構や遺物が確認されました。

米軍基地内の発掘調査は、開発等に伴う大規模な面積の記録保存調査が増えつつあります。普天間古集落・普天間後原第二遺跡ほか（キャンプ瑞慶覧内）の海軍病院建設に伴う記録保存発掘調査は、平成20～25（2008～2013）年度で約5.4ヘクタールの調査を実施し、先史時代からグスク時代、近世～近代の多種多様な遺構が確認され、普天間古集落の碁盤目状に区画された溝と道跡が検出されています。神山古集落（普天間飛行場内）の記録保存調査でも同様に、集落や沖縄戦に関する遺構が確認されました。

あがりむら  
那覇市域の調査として、東村跡の県立離島児童生徒支援センター建設に伴う記録保存調査では  
ゲスク時代から近世の石造遺構や青磁・白磁などの遺物廃棄土坑が確認されました。大嶺村跡(那  
覇空港内)の那覇空港拡張事業に伴う記録保存調査では当時の井戸や馬埋葬跡などが確認され  
ました。

宮古・八重山諸島の調査は、宮古島では宮国元島上方古墓群の調査を実施し、多量の人骨と副  
葬品を確認しました。石垣島の白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査では、後期更新世(約27,000  
年前~)人骨の出土をはじめ、下田原期の崖葬墓などが確認され、後期更新世から近世まで断続  
的に人に利用された沖縄県でもまれな洞穴遺跡であることがわかりました。

分布調査のうち、基地内文化財分布調査は、普天間飛行場内の遺跡の範囲や内容を把握するた  
めの確認調査を平成15(2003)年度から継続的に実施しています。また、キャンプ瑞慶覧西普天間  
住宅地区が平成27(2015)年3月31日に返還されたことに伴い、返還後の跡地利用に先立って埋  
蔵文化財の有無や範囲・性格を把握するための試掘確認調査を平成27・28(2015・2016)年度に県  
と宜野湾市が共同で実施しました。

普天間飛行場代替施設建設予定地であるキャンプ・シュワブ海域の文化財分布調査は、県と名  
護市が共同で実施し、緊急発掘調査の対象となるような水中遺跡を確認することは出来ませんでした  
が、今後の水中遺跡の調査手法について検討することが出来ました。

県内遺跡詳細分布調査として、自然崩壊の危機があった渡嘉敷村の船越原遺跡と阿波連浦貝塚  
の保護と範囲確認のための試掘・確認調査を行うとともに、慶良間諸島における遺跡分布調査を  
平成22~27(2010~2015)年度に実施しました。

戦争遺跡については、平成10~17(1998~2005)年度に実施した分布調査成果をもとに、戦  
争遺跡の保存活用を検討するために平成22~26(2010~2014)年度に詳細確認調査を実施し、  
沖縄県の戦争遺跡のうち重要な145ヶ所を取り上げた調査報告書をまとめました。

また、市町村教育委員会の発掘調査への指導・協力として、キャンプ・シュワブ内の長崎兼久遺  
物散布地の発掘調査があげられます。

今回の20周年展では、直近10年間(平成22~令和元年度)の発掘調査のうち、以下の発掘  
調査成果についてご紹介いたします。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ・首里城跡           | ・中城御殿跡(県立博物館跡地) |
| ・首里高校内埋蔵文化財     | ・東村跡            |
| ・普天間飛行場の文化財分布調査 | ・西普天間住宅地区試掘確認調査 |
| ・普天間古集落ほか       | ・慶良間諸島の遺跡詳細分布調査 |
| ・宮国元島上方古墓群      | ・白保竿根田原洞穴遺跡     |

### 【發掘調查一覽】

# 掲載遺跡の位置図

沖縄本島



西普天間住宅地区試掘確認調査



東村跡



普天間古集落ほか



中城御殿跡（県立博物館跡地）



普天間飛行場の文化財分布調査



首里高校内埋蔵文化財



首里城跡

### 慶良間諸島



慶良間諸島の遺跡詳細分布調査  
(船越原遺跡)

### 宮古諸島



宮国元島上方古墓群

### 八重山諸島



白保芋根田原洞穴遺跡

# 首里城跡

所 在 地：那覇市首里当蔵町

調査年度：昭和 59～平成 30 年度

調査目的：史跡整備

かつて琉球王国の王城であった首里城。アジア・太平洋戦争末期の沖縄戦で多くの建造物群が焼失・破壊されましたが、首里城の往時の姿を復元するために、沖縄県教育委員会では基礎資料を得ることを目的とした発掘調査を実施してきました。過去 30 年以上に及ぶ調査では様々な発見がありましたが、今回は平成 22(2010) 年度以降の主な成果についてトピックごとに紹介します。

## 城壁・城門及び周辺施設に関する遺構

淑順門西地区（平成 22 年度調査）では、淑順門から正殿に向かう城壁が約 20m にわたって見つかりました。城壁の幅は北側で約 6.5m、南側で約 4m になります。さらに南側では胸壁と考えられる幅約 2m の両面積みの石積みも確認されました。見つかった城壁のコーナー部分は緩やかな曲線を描くように積まれているのが特徴的です。

城壁は、15 世紀半ばの土層を掘り込んで作られていることから、それよりは新しいと考えられ、他にもこの城壁に埋もれるような形で 15 世紀前半以前の古い石積みも部分的に見つかっています。

御内原東地区（平成 24 年度調査）では平面形が「Z」の字形の石積みを検出しました。この石積みは内郭城壁の一部で、幅は約 5～6m になります。さらに外側の下部からは城壁を補強するための土留めの石積みも見つかっています。この城壁が築かれた場所は、南から北へ向かって急傾斜しており、このような場所に強固な城壁を積み上げるための基礎工事として土留めの石積みを配置したと考えられます。城壁石積みは構造や出土遺物から、外郭城壁が構築される 16 世紀中葉より前に存在した城壁の一部と考えられます。

繼世門北地区（平成 26 年度調査）では、「美福門」（尚巴志王代（1422～39 年）創建と伝わる内郭の門で、かつては首里城の正門であったともされています。）の基壇及び階段、獅子像を据えたとされる台座の一部を確認しました。またこれらの下層からは、美福門城壁の基礎工事に伴う土留めの石積みも見つかりました。

階段は磴道とも呼ばれる形態で、幅が広く緩やかに傾斜する踏面と、高い蹴上という特徴があります。段数は平場から数えて 14 段確認できましたが、15 段以降は戦後の造成で破壊されています。破壊された箇所を詳細に観察すると、階段は琉球石灰岩の基盤層を階段状に加工し、その上に平たんな石材を敷き詰めていることが分かりました。

年代は、基礎石積みや階段下層出土の陶磁器等から 15～17 世紀と考えられます。



城壁（源順門から正殿につながる）



内郭城壁



美福門砦道

## らでん 螺鈿の製作を伝える発見

錢蔵東地区(平成23年度調査)では、ヤコウガイ、チョウセンサザエ、サラサバティなどの真珠層が多く含まれる貝類の破片が大量に出土しました。この遺構は、螺鈿に使用した貝殻を捨てた場所と考えられ、15世紀後半～16世紀前半頃の首里城内で螺鈿製作を行っていたことが分かりました。琉球における螺鈿利用を考える上で重要な発見となりました。



貝だまり遺構

首里城内では、螺鈿製作の他にも様々な製品の加工・製作を行っていた様子が明らかになっています。錢蔵地区では17世紀前半頃の石造製品加工場跡が見つかっています。また、西のアザナ地区では、15～16世紀に金属製品を生産していたことを伝える工房跡が発見されるなど、城内では活発な生産活動があったことがうかがえます。



貝殻小研磨片

## 拝所に関係する遺構

### 「赤田御門の御嶽」と考えられる遺構

繼世門北地区(平成26年度調査)では、美福門階段の東側から、直径約3～4m×高さ約2mの巨岩とそれを囲む二重の石積みが見つかりました。これはかつて首里城内に10ヶ所あった御嶽の一つで、繼世門の北側に位置する「赤田御門の御嶽」と考えられます。明確な加工のない巨岩を囲う二重構造の石積みは、美福門より古い時期に構築されたものと17～18世紀代に構築されたものからなります。この巨岩上面にある2ヶ所の自然凹部からは、金製厭勝銭と錢貨が人為的に埋められた状態で合計23枚出土しました。金製の厭勝銭は首里城跡・斎場御嶽・園比屋武御嶽と限られた遺跡でしか確認されていないため、祭祀行為に伴う遺物と考えられます。また今回の資料は、御嶽の「イビ(神が降臨する際の標識)」に相当する巨岩から出土した初の事例でもあることから、琉球王国時代の首里城内における祭祀の様相をうかがう上で貴重な発見といえます。

## 拝所に関係する遺構

### 「コ」の字形の石積み

東のアザナ北地区(平成25年度調査)では、平面形が「コ」の字形の石積みを検出しました。石積みの基部や内部から錢貨が多く出土しましたが、その中には出土例が限定的な金製の厭勝銭もありました。よってこの遺構はかつて首里城内にあった10ヶ所の御嶽のひとつかもしれません。



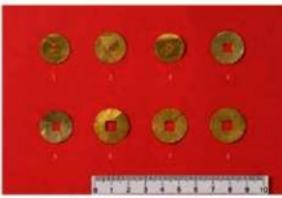
拝所遺構



「コ」の字形の石積み



京の内御蹴跡出土のチョウセンサザエ



京の内御蹴跡出土の金製の厭勝錢

金製の厭勝錢は、京の内の御蹴跡からも8枚出土しています。発見された時の状況は、2個のチョウセンサザエの殻が重なった状態で、大きいサザエを身としてその中に金錢を納め、そして小さいサザエをその蓋とした、埋納容器として利用したものでした。このような例は県内で初めての発見例です。

## 洞穴遺構の発見

あがり 東のアザナ北地区(平成25年度調査)では、「東のアザナ」郭の崖下から人工の開口部を利用した洞穴遺構が見つかりました。内部は床面5×8m、高さ1.6mを測り、床面の北側半分は石灰岩を砂利状にした石粉を10cm程の厚さで造成し、南側半分は基壇状に石を敷いています。グスク北側の垂直に切り立つ崖面に立地するという特徴が浦添ようどれに類似しますが、発掘調査では陵墓との関係を示すような遺物は見つかっていません。



洞穴遺構の外観

調査の結果、当初は14世紀後半～15世紀初頭に石粉敷きの施設であったものを、後の時代(近代・沖縄戦時)に南側を掘り広げ、石を敷き詰めて改変を行ったものと考えられます。

## 一括廃棄された遺物

うー ちばる 御内原東地区(平成24年度調査)では、かつて金蔵(1732年創建の宝物類を収納した倉庫)があつたとされる場所の周辺から、年代の異なる落ち込み遺構が2基見つかり、その中から特徴的な遺物が出土しました。その一つが、瓦製の欄干です。欄干は親柱や束などの部材を組み合わせるもので、一緒に出土した陶磁器から17世紀以前のものと考えられます。つまり、この時期に首里城内では瓦製の欄干を伴う施設が存在した可能性があります。



落ち込み遺構

かんよう その他、特徴的な出土品として、清の時代の官窯製品を挙げることができます。官窯製品とは中国皇帝が使用するために作られた製品で、当時の中国(清朝)で生産された最高レベルの陶磁器です。一般には流通しないとされるこのような陶磁器が、限られた人間しか立入できない「御内原」エリアから複数出土したことは、これらはかつて国王一族の食事や来賓の接待の場で使用された食器類であったのかもしれません。

## 沖縄戦に関係する遺構

あがり 東のアザナ北地区(平成24・25年度調査)では、沖縄県師範学校の生徒が構築した避難壕を確認しました。「留魂壕」と名付けられた壕は、東西50×南北20mの範囲に総延長130mが確認されました。壕口は3ヶ所配置され、それぞれから南北方向に通路が延び、内部で東西方向の通路に繋がります。壕内の通路は土質の関係上、崩落や埋没が進んでいる箇所もありましたが、基本幅1.8m、高さ1.5～1.8mを測ります。中でも沖縄戦当時、沖縄新報社が陣中新聞を発行していました壕一帯から金属製活字が多数出土したこと、壕内で新聞を発行していた事実を考古学的に確認することができました。



留魂塚の外観(東のアザナ北地区)



留魂塚内の坑道の様子

## その他の遺構など

奉神門地区 (平成 23 年度調査)では、うめがめ埋甕の確認調査を行いました。その結果、埋甕は高さが約 85cm ある大きな甕で、周りに敷かれた石敷きと一緒に 18 世紀頃設置されたものと分かりました。

この埋甕は、骨や貝などは出土しなかつたため、ゴミ捨て場ではなく、防火用として設置された可能性も考えられます。現在では、この甕が復元されており、見学することができます。

また、淑順門西地区 (平成 22 年度調査) では城壁の下層から 13 世紀後半まで遡る堆積層が見つかりました。首里城の創建はいつ頃か、その成り立ちを考える上で重要な成果といえます。

首里城の創建については、明確な記録は残っておらず、文献上最初に表れるのは 1427 年建立の「安國山樹華木之記碑」とされることより、15 世紀前半には築城されたと考えられています。しかしながらこれまでの発掘調査の成果から、従来考えられていた年代よりも古い時期から何らかの利用があったとも考えられます。



埋甕検出状況（奉神門地区）

## 首里城跡の発掘調査

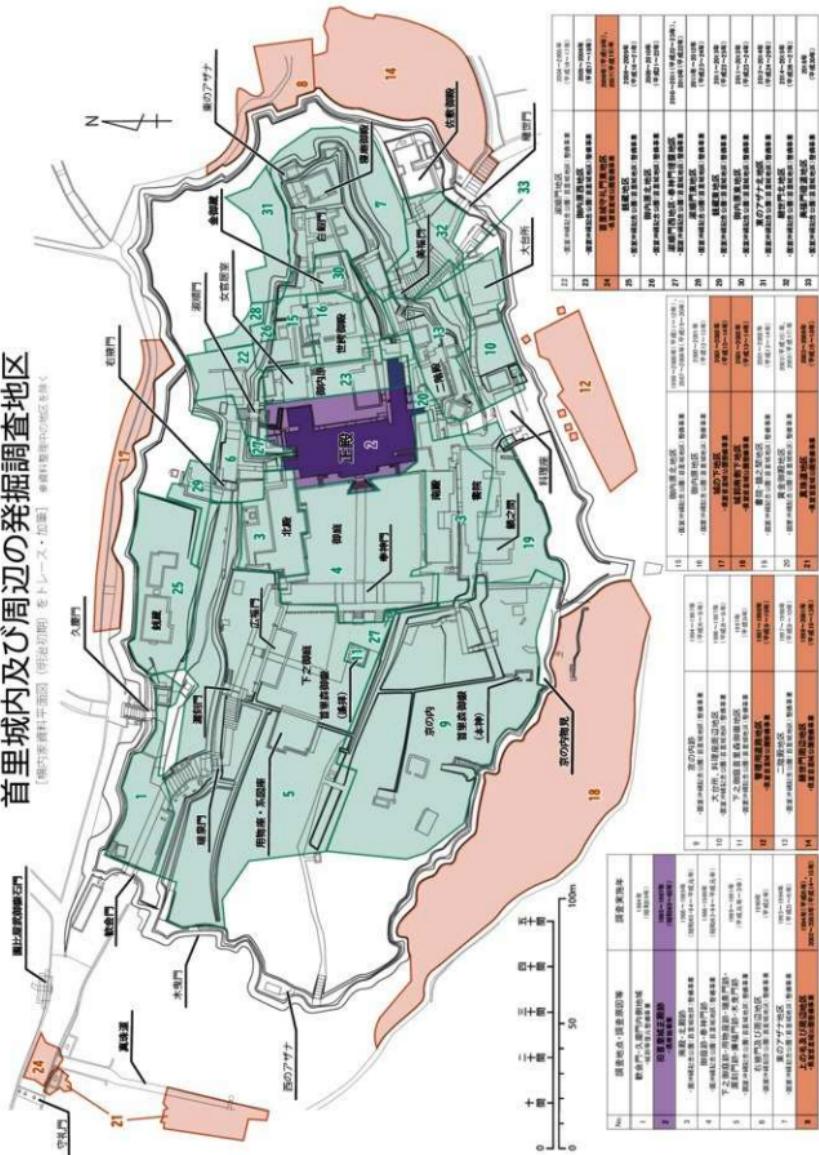
首里城跡の復元整備に伴う発掘調査は、勧会門・久慶門内郭地区が最初です。沖縄県が日本に復帰した昭和 47(1972) 年から始まった首里城城郭等復元整備事業の一環で実施されました。これまでに様々な発見があった中、平成 30(2018) 年度の美福門礎地区の発掘調査を最後に事業の一区切りを迎えました。なお現在は、平成 3(1991) 年度から始まった県営公園整備に係る発掘調査（首里城外郭外側）を継続して実施しています。

首里城公園では、平成 31(2019) 年 1 月末で国営部分における整備事業が終了し、同年 2 月からは有料区域の管理・運営を沖縄県に移管されました。これまでの調査成果をまとめた発掘調査報告書は計 30 冊以上に及びます。まだまだ資料整理途中のものもあります。今後の課題として、これまでに得られた膨大な成果を総合的に整理することで、あらためて首里城の歴史が明らかになり、これからも首里城公園の整備・活用の大きな一助となるものと考えられます。

（金城 貴子）

# 首里城内及び周辺の発掘調査地区

[現行施設平面図(明治初期)をトレース・加重] 参照資料中の地区を示す



※表の「既往の発掘調査地」とは既存の「重要文化財」や「史跡」の正式名称、「重要文化財等登録情報」で確認を行った上で「既往の発掘調査地と重複する区域」から除外した区域。

※既往の「既往の発掘調査地」とは既存の「重要文化財」や「史跡」の正式名称、「重要文化財等登録情報」で確認を行った上で「既往の発掘調査地と重複しない区域」。

※赤色は既往の発掘調査地。

# 中城御殿跡(県立博物館跡地)

所 在 地：県立博物館跡地(那覇市首里大中町)

調査年度：平成 19～24 年度・平成 26～29 年度・令和元年度

調査目的：公園整備に伴う範囲確認調査

中城御殿は、次の琉球国王となる世子が暮らした邸宅で、当初は 17 世紀前半に現首里高等学校の敷地内に創建されました。その後、明治 3(1870) 年に現在の首里大中町に移転することが決まり、明治 8(1875) 年に現在の県立博物館跡地に移り、世子はこの御殿で生活を送ると共に、執務を行いました。敷地は約 3,400 坪で、そのエリアは東西に大きく二分されます。東側は主要な建物が群立する区域で、20 棟以上の建造物が密接して軒を連ねていました。対して西側は、巨木がうっそうと茂る中に、自然の岩盤を利用した庭園や、大岩を取り囲む螺旋階段を設置した拝所、いのくわどうら 上之御殿と呼ばれる建物で構成されていました。

中城御殿跡の発掘調査は、昭和 63(1988) 年度に沖縄県土木建築部が策定した、首里城公園基本設計に基づく公園整備を目的とした調査で、平成 19(2007) 年度から沖縄県立埋蔵文化財センターが実施しています。これまでの調査により、多くの遺構が埋蔵されていることがわかり、将来的には公園として復元整備を行う予定となっています。



中城御殿屋根伏図(中城御殿跡地整備検討委員会資料：沖縄県都市公園課提供)

## これまでの調査で見つかった遺構

### 前の空間

おひで う どうん 表御殿と呼ばれる空間で、正門から大御庭手前までの建物群で構成されています。世子及び職員が執務や公式行事等を執り行う空間だったとされています。

調査の結果、西側の空間は戦後の開発などにより遺構が残っていませんでしたが、東側では、通路となる石畳道や溝、建物の基壇となる石の列などが見つかっています。



御庭間の石畳などの検出状況



石畠及び脇の側溝

### 奥内原の空間

おく う どうん 奥御殿と呼ばれる、大御庭から北側一帯の建物群で構成されます。世子の親族や女官らが生活していた男子禁制の空間で、瓦塀によって区画されていました。後述の上之御殿の入り口となる門及び階段跡の他、建物間の石畠、建物内のトイレと考えられる遺構、建物の基盤遺構などが確認されています。

周辺から出土した特徴的な遺物として、溝の中から缶に入れられた状態の位牌が見つかっています。作られた年代などは明らかになっていませんが、出土状況から、第二次世界大戦の最中、戦況が悪化する中で位牌を避難するために溝の中に隠したものと考えられます。

見つかった位牌と同じように、戦時中に改変されたと考えられる遺構は他にもあり、上之御殿に繋がる階段の踊り場には、石畠部分を外され、約 140cm の穴が掘られています。聞き取り調査によって、戦時中に敷地内に掘った穴に宝物を隠したことなどの情報が得られています。



溝内に隠されていた位牌



位牌取り上げ作業の様子



上之御殿に繋がる門と階段



階段踊り場の穴



新御殿北の石



石畳内の埋蔵



トイレ遺構



炭御藏建物の基礎

## 上之御殿の空間

中城御殿の西側、御内原より2mほど高い石牆に囲まれたテラス状の空間で、木々に覆われた中に挙所や池のある庭園、上之御殿と呼ばれる建物が存在していました。建物の機能については資料はほとんど残されていませんが、大正9(1920)年に尚泰の息子の尚時が上之御殿に移り住んだとされる記録もあり、生活が営める施設があったと考えられます。

上之御殿周辺の特徴的な遺構として、大岩の御嶽周囲を囲んでいた、らせん状の階段の基部と考えられる石の列が挙げられます。古写真に見られるような階段部分は外されてしまっていますが、大岩自体を加工した跡は現在でも確認することができます。また、階段基部の一部は、底の石が抜き取られ、穴が開けられており、戦時中に開けられた穴の一部の可能性も考えられます。

他に見つかった遺構としては、上之御殿西端の南北に走る石牆や、庭園の基盤遺構などがあります。庭園の遺構については、現在地表面に出ている池部分より西側の、一段下がった所から池の延長部が見つかっています。

(田村 薫)



古写真に見られる大岩の拝所



大岩の拝所と階段基部



大岩に残る階段加工跡



階段基部下側の穴



上之御殿西端の石牆



庭園・池遺構

# 首里高校内埋蔵文化財

所 在 地：首里高校敷地内（那覇市首里真和志町）

調査年度：平成 25・26・29・30 年度（現在も継続して調査中）

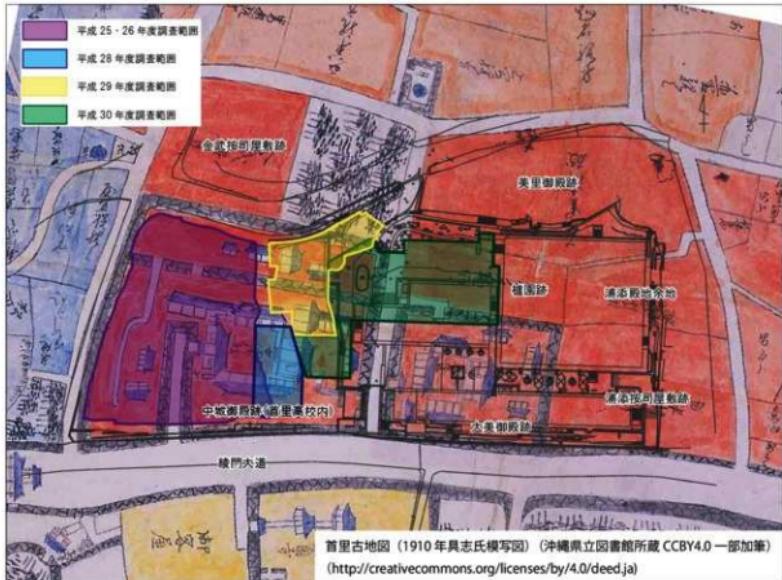
調査目的：記録保存調査

首里高等学校の敷地内では、発掘調査によって保存状態が良好な状況で遺構が確認されました。1700 年代に描かれた「首里古地図」に照らし合わせると、中城御殿跡、櫓園跡（かぢ木植所）にあたります。この遺跡以外にも、首里高校の敷地内には大美御殿、浦添按司屋敷跡、浦添殿地余地といった合計 5 つの屋敷地等の遺跡があるとされています。

平成 22(2010) 年度に首里高校の校舎老朽化に伴い、新校舎改築が決定されました。校舎改築に先立ち、埋蔵文化財の有無を確認するため那覇市教育委員会が試掘調査を実施したところ、地中に遺跡が残存していることが判明しました。この調査結果を受け、平成 25(2013) 年度から沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行っています。

発掘調査で確認された遺構は、保存状況が良く首里地域の歴史を考える上で重要な遺構であることから、関係各機関と調整を行い、可能な限り地中に保存することが決まりました。

新校舎改築に合わせ、継続して発掘調査を行っています。今回は、発掘調査を行うなかで確認された中城御殿跡や櫓園跡の遺構を紹介します。



首里古地図と発掘調査区の重ね図

## 中城御殿跡

中城御殿は、時期国王となる世子が暮らした邸宅跡です。1621～1640年代の尚豊王代に現在の首里高校敷地内に創建されました。その後、明治8（1875）年に龍潭の北側にある県立博物館跡に移転しました。ここでは、移転前の中城御殿のことについて紹介します。

中城御殿跡では、井戸と洗い場が一緒になった水場遺構、屋敷内の石垣、まとめて捨てられた食器類など、当時の中城御殿で使用されていた多くの遺構や遺物が確認されました。

平成29(2017)年度調査では中城御殿の北側部分にあたる石牆と門の部分が見つかりました。続く平成30(2018)年度調査では、東側にあたる石牆も確認され、中城御殿の敷地の範囲が判明しつつあります。

多くの出土遺物から、中城御殿の築造や変遷の様子が判明しました。現地で確認した遺構は、17世紀前半の創建当初の遺構は少なく、数回の改築を経た18世紀代の遺構が大半を占めます。

中城御殿が創建される以前の建物の柱穴跡やごみ捨て穴等も確認され、中城御殿の創建以前から土地利用が行われていることが明らかになりました。



中城御殿の調査地遠景（平成25・26年度）



井戸と洗い場が一緒になった水場遺構



屋敷内の石垣



まとめて廃棄された食器



北側石牆と門跡



東側石牆

## はじえん 櫛園跡

「首里古地図」には、「かち木植所」と記載されていますが、『球陽』には櫛園とあります。蠟燭や漆器の原料となる漆を採取するための櫛園があったとされています。

平成 30(2018) 年度の調査時に、櫛園にあたる一部分の発掘調査を行いました。櫛園跡は、後世の削平を大きく受けましたが、削平を逃れた部分がわずかに残されていました。その部分から石組土坑を確認しました。土坑内にはヤコウガイやシャコガイ、サラサバテイなどの貝の破片が多く捨てられていました。



石組土坑からの出土遺物



調査風景

## 道跡

平成 30(2018) 年度の調査時に、中城御殿跡と櫛園跡の間で道跡を確認しました。この道跡の発見により、中城御殿や櫛園跡の遺跡の範囲を区別することができます。

道跡には、雨水対策として両脇に排水溝が設置されていました。歩道部分は、歩きやすいように石灰岩を細かく砕いて敷き詰められていました。この道を整備するにあたり、元の地面を切り土して整え、地面を造成しながら道が築造されている状況が確認できました。当時の道の築造方法が明らかになることに加え、屋敷の境界など、遺跡の位置関係を検討する際の基準地点となる非常に重要な遺構です。



道路全体（南側から撮影）



石積と排水溝跡

## 遺構の現地保存

首里高校敷地内で確認された遺構は、可能な限り現地保存することになりました。ここでは、現地保存の方法を紹介します。

露出した遺構をそのままにしておくと、雨や風、太陽の熱などにより徐々に崩壊が進みますので、遺構にとって良い状態とは言えません。そのため、調査完了後は遺構保護のため埋め戻しを行いました。埋め戻しの際は、遺構部分は砂で覆い保護しました。砂を使用したのは、遺構全体を満遍なく覆うことが可能のことと、校舎改築工事等で再掘削した際に見分けがつくためです。砂で保護したあとは、調査中に発生した土で埋め戻しを行いました。

遠い将来、地中に保存した遺構を確認するための発掘調査を行う際にも、すぐに見分けがつくことでしょう。



遺構保護前(平成 25・26 年度部分)



遺構保護完了状況(平成 25・26 年度部分)



保護砂撒入状況(平成 30 年度部分)



埋め戻し状況(平成 30 年度部分)

校舎改築を行う際には、建物を支える基礎杭や地中梁等の構造物を地中に設置する必要があります。これらの構造物は、遺構に到達しない深度で設置するよう調整してもらいました。また、基礎杭の位置をずらすことにより地中の遺構に影響が及ばないようにしています。しかしながら、どうしても遺構に影響が及ぶ部分に関しては、記録保存調査を行いました。その場合でも、遺構に影響が及ぶ部分に絞って調査を行い、可能な限り、現地に遺構を保存するようにしました。

(亀島 健吾)



地中構造物(青・黄色のテープ部分)と遺構の位置関係の確認状況

あがりむら  
**東村跡**

所在地：那覇市東町

調査年度：平成 26 年度

調査目的：記録保存調査

琉球王国時代に海外交易の玄関口であった那覇港。東村跡は那覇港と近接した場所に位置しており、周辺には港湾に関わる施設などの他、琉球王国時代の役所の一つである親見世、冊封使の宿舎として利用された天ヶ館などの公的な施設もありました。戦前には、那覇市役所、東町交番等の公的機関の他、銀行、商店が建設され、古くから那覇の中心地として多くの人々でぎわった場所でした。

離島から本島の高校へ進学する高校生が利用する沖縄県立離島児童生徒支援センターの建設に伴い、平成 26(2014) 年度に発掘調査を実施しました。調査の結果、グスク時代、近世、近代～戦前の様々な遺構や遺物が見つかりました。

中でも注目されるのが、15 世紀前半～中頃の陶磁器類がまとまって見つかった遺構です。壊れて商品には適しない輸入製品を捨てたものと考えられ、当時の東村が交易品の集積地であった様子がうかがえます。また、貝集積遺構のサラサバティや本遺跡から出土したヤコウガイ片は、首里城で出土した螺鈿関連の貝殻片とよく似ています。その他、近世の遺構からは、表面が削り取られた牛の角の芯も複数見つかりました。これらは、べつ甲細工の代用品としての利用が考えられます。



方形石組遺構（ゴミ捨て場と考えられる）

遺物では、沖縄産や中国産を中心に、東南アジア、朝鮮半島、日本産の陶磁器の他、動物の骨や貝類も数多く出土しました。動物の骨の中には、解体時につけた傷が確認できるものもあります。

(金城 貴子)



まとめて廃棄された陶器



# 普天間飛行場の文化財分布調査

所 在 地：普天間飛行場（宜野湾市）

調査年度：平成 11 年度～（継続）

調査目的：遺跡の有無、範囲・内容確認

沖縄県教育委員会は、平成 9(1997) 年度に文化庁の補助を受け、基地内文化財分布調査を開始します。当時、沖縄県にある 11 の米軍施設・区域の返還が平成 8(1996) 年 12 月に日米両政府間で合意され、返還予定地の文化財把握が緊急課題となっていました。

平成 9(1997) 年度に関係市町村教育委員会等の協力を得ながら、米軍基地内にある文化財に関する情報収集を行い、平成 10(1998) 年度から米軍基地内で試掘調査を開始しました。平成 12(2000) 年度に沖縄県立埋蔵文化財センターが開所した後も事業を継続し、これまでにキャンプ瑞慶覧や普天間飛行場、西普天間住宅地区（跡地）、キャンプ・シュワブ沖などで文化財を把握するための調査を実施してきました。

ここでは、基地内文化財分布調査開始前後の状況と、現在も継続して実施している普天間飛行場の文化財分布調査を中心に紹介したいと思います。

## 米軍基地にある文化財

市町村教育委員会等の尽力により、文化財が米軍基地にも存在することは早くから知られていました。しかし、基地全域を対象とした調査を行えず、文化財の全体像が把握できない状態が長く続いていました。現在も十分な調査を行えていない米軍基地があります。

## 跡地利用と文化財保護

現在の那覇新都心は、もともと米軍の牧港住宅地区でした。昭和 62(1987) 年に全面返還された後、すぐに那覇市教育委員会による本格的な文化財調査が始まりました。関係者の協力で銘苅古墓群の一部が現地に保存され、平成 19(2007) 年には「銘苅墓跡群」として国の史跡に指定されることとなりますが、工事中に新しい遺跡が発見される事例もあり、返還前に十分な調査を行うことの重要性が指摘されるなど、今後の米軍基地返還跡地利用と文化財保護における課題を整理するきっかけになりました。

## 返還前調査の先駆け

キャンプ桑江北側返還に先立ち、北谷町教育委員会は平成 7(1995) 年度から返還予定地全域を対象とした文化財調査を実施しました。この調査によって米軍基地内における文化財の把握方法が検証・確立されるとともに、平成 21(2009) 年には伊礼原遺跡が国の史跡に指定されるなど、今日の米軍基地における文化財保護に大きな影響を与えることとなります。

## 普天間飛行場における試掘調査

普天間飛行場は、他の多くの基地と同様に、基地建設によって元の地形が大きく変わっており、地中に埋もれた文化財を地表面の観察で把握する事が難しい状況でした。

そのため、沖縄県教育委員会では、部分的に地面を掘って遺跡があるかどうかを調べる「試掘調査」から始めることにしました。その際、北谷町教育委員会がキャンプ桑江北側返還予定地で実施した調査方法を参考とし、普天間飛行場全域に30m間隔で調査地点を設定し、掘る穴の大きさは4×4mを基準としました。

平成11(1999)年度に県教委が単独で開始した普天間飛行場における試掘調査は、平成13(2001)年度に宜野湾市教育委員会も加わり、県と市が共同で調査を実施する体制が整うことになります。

普天間飛行場全域で必要な試掘調査箇所は約5,100箇所あります。その内、返還前に実施可能な約1,500箇所については、平成22(2010)年度に終了しました。

試掘調査開始前に普天間飛行場で把握されていた遺跡の数は44箇所でしたが、現在では105箇所になっています。返還後に予定されている試掘調査を行うと、遺跡の数はさらに増えることになるでしょう。



普天間飛行場内及び周辺の遺跡分布状況

## 普天間飛行場における確認調査

試掘調査では、遺跡があるかどうかや、おおまかな情報しか得ることができません。そのため、次に必要となるのが遺跡の範囲や内容を把握するための「確認調査」です。

埋蔵文化財センターと宜野湾市教育委員会が平成 15(2003) 年度から実施してきた確認調査により、4つの遺跡の範囲や時代、種類等が明らかとなっています。

稼働中の基地であるがゆえの様々な制限により、思うように進んでいない部分もありますが、返還前に一つでも多くの遺跡の内容を明らかにし、重要な遺跡をできる限り後世に継承できるよう、これからも調査を継続していきます。

(中山晋・知念隆博)



重機による掘削作業



範囲確認作業状況

## 環境補足協定と文化財調査 … Column①

平成 27(2015) 年 9 月 28 日、日米両政府間で「環境補足協定」が締結され、同日、日本側による施設・区域への立入りのための手続を定めた「環境に関する協力について」と題する日米合同委員会合意文書が発出されました。

以前は、教育委員会が米軍に直接立入許可を申請していましたが、「環境に関する協力について」に定める手続きの対象に文化財調査も含まれられたため、平成 27(2015) 年度から沖縄防衛局を通して米軍に立入申請することになりました。

ところが、具体的な事務手続きが決まっておらず、平成 11(1999) 年度から継続して実施してきた普天間飛行場の文化財分布調査を一時中断せざるを得ない状況となりました。

その後、多くの時間を要することとなりましたが、関係者の理解と協力により準備が整い、令和元 (2019) 年度に確認調査を再開することができました。

(中山晋)

## 基地内文化財分布調査関連年表

|             |        |  |
|-------------|--------|--|
| 昭和62        | (1987) | ★那覇市の牧港住宅地区全面返還（5月）<br>○那覇市教委、返還跡地で分布調査・試掘調査開始。  |
| 平成元         | (1989) | ○県史と那覇市長、地域振興整備公団（当時）に事業要請（4月）<br>○那覇市教委による分布調査・試掘調査終了   |
| 平成2         | (1990) | ○那覇市教委、那覇新都心地区画整理事業に伴う緊急調査着手（以後、天久公園整備事業に伴う緊急調査も含め、平成15年度まで継続）   |
| 平成4         | (1992) | ○那覇新都心地区画整理事業計画認可（9月）、工事着工（10月）  |
| 平成7         | (1995) | ○北谷町教委、キャンプ桑江北側返還予定地における試掘調査開始<br>○平敷屋原遺跡が米軍工事により破壊（1月）  |
| 平成8         | (1996) | ■日米安全保障協議委員会（SCC）において、「沖縄に関する特別行動委員会」（SACO）の最終報告承認（12月）→11施設・区域の返還合意   |
| 平成9         | (1997) | ○県教委、文化庁国庫補助による基地内文化財分布調査事業着手<br>○北谷町教委によるキャンプ桑江北側返還予定地における試掘調査終了  |
| 平成10        | (1998) | ○北谷町教委、キャンプ桑江北側返還予定地における確認調査着手<br>○県教委、キャンプ瑞慶賀において試掘調査実施   |
| 平成11        | (1999) | ○県教委、普天間飛行場において試掘調査開始  |
| 平成12        | (2000) | ○沖縄県立埋蔵文化財センター開所、基地内文化財分布調査事業継承  |
| 平成13        | (2001) | ○宜野湾市教委、普天間飛行場における試掘調査着手<br>○県教委、埋蔵文化財広域発掘調査手法検討調査着手（文化庁支出委任）物理探査（三次元地中レーダー、二次元地中レーダー、磁気探査、電気探査、弹性波探査）実施                             |
| 平成14        | (2002) | ○県教委、普天間飛行場において物理探査実施<br>★キャンプ桑江北側返還（3月）   |
| 平成15        | (2003) | ○埋蔵文化財センター、普天間飛行場において確認調査着手<br>○県教委、キャンプ桑江において物理探査実施   |
| 平成17        | (2005) | ○北谷町教委によるキャンプ桑江北側返還跡地における確認調査終了  |
| 平成19        | (2007) | ○名護市教委、キャンプシュワブにおいて文化財分布調査開始<br>○銘苅墓跡群、国の史跡に指定される（7月）  |
| 平成21        | (2009) | ○伊礼原遺跡、国の史跡に指定される（2月）  |
| 平成25        | (2013) | ■日米両政府、「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」を発表（4月）  |
| 平成26        | (2014) | ○宜野湾市教委、西普天間住宅地区返還予定地における試掘調査着手（8月）<br>○県教委、「沖縄県における駐留軍用地内の埋蔵文化財取り扱い方針」策定（2月）…沖縄戦で文献等が失われた沖縄県において、近世以降の遺跡の重要性を再確認<br>★西普天間住宅地区返還（3月） |
| 平成27        | (2015) | ■日米両政府、「環境補足協定」締結（9月）<br>○埋蔵文化財センター、普天間飛行場における調査中断<br>○埋蔵文化財センター、西普天間住宅地区跡地における試掘・確認調査着手   |
| 平成28        | (2016) | ○埋蔵文化財センター、西普天間住宅地区跡地における試掘・確認調査終了   |
| 平成29        | (2017) | ○埋蔵文化財センター、普天間飛行場における調査再開（現地確認、調査準備実施）<br>○埋蔵文化財センター、キャンプシュワブ沖の分布調査着手（名護市支援）   |
| 平成30        | (2018) | ○埋蔵文化財センター、普天間飛行場における調査再中断（立入手続に時間を要したため）<br>○埋蔵文化財センター、キャンプシュワブ沖の分布調査終了   |
| 平成31<br>令和元 | (2019) | ○沖縄県立埋蔵文化財センター、普天間飛行場において確認調査再開  |

# 普天間古集落ほか

所 在 地：キャンプ瑞慶覧（宜野湾市）

調査年度：平成 20～25 年度

調査目的：記録保存調査

沖縄防衛局の事業で北谷町のキャンプ桑江にある米海軍病院とその周辺施設を宜野湾市のキャンプ瑞慶覧内に移設することとなり、事前の発掘調査を行いました。

試掘調査では移設予定地の約 20 ヘクタール全域で縄文時代、グスク時代及び近世・近代の遺跡が広がることが明らかとなり、病院等の施設が建てられる場所は記録保存調査を実施することになりました。大規模な調査に加えて、調査期間も限られたことから宜野湾市教育委員会と共同で発掘調査を実施しました。宜野湾市が縄文時代やグスク時代の遺構が広がる範囲を担当し、県は旧普天間集落の遺構が広がる箇所を担当しました。県は平成 20～平成 25(2008～2013) 年度までの 6 年間で普天間古集落、普天間後原第二遺跡、くじゅる 普天間下原第二遺跡、しちゃばる 普天間石川原遺跡の 4 遺跡あわせて約 5.4 ヘクタールの調査を行いました。時代ごとにまとめて紹介します。





旧普天間集落と発掘調査範囲

## 縄文時代

縄文時代の遺構は竪穴遺構や土坑を確認しています。竪穴遺構の中からは縄文時代晩期の宇佐浜式土器、仲原式土器や石器などが出土しています。特徴的な遺構として、落し穴の可能性がある直径 1 m を超える大型の土坑も確認しました。



竪穴遺構

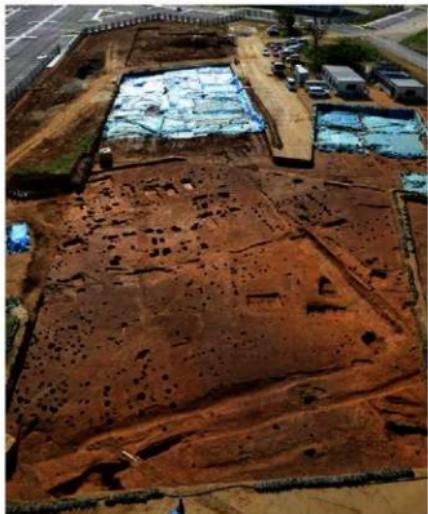


大型土坑

## グスク時代

掘立柱建物跡、ピット、柵等を確認しています。掘立柱建物跡は柱の多い大型の母屋と柱の少ない倉庫と考えられるものがあります。宜野湾市の調査箇所から多くの掘立柱建物跡が確認されており、遺構の広がりを見ると普天満宮北西側のフィールド丘陵の南側を中心に分布していることが分かりました。

出土遺物はグスク土器、玉縁の白磁、カムイヤキ等の11～12世紀が多いことから、グスク時代の集落は限られた時期にだけ存在した可能性があります。



遺構完掘状況



柱跡の断面



カムイヤキ出土状況

## 近世・近代

米軍に接收される前の屋敷跡、道跡、溝跡等の集落に関する遺構が多く確認されています。遺構は普天満宮がある東側から西側方向へ少なくなる傾向があり、西側は主として耕作地として利用されていたことが分かりました。また、西側の一部では耕作土の上にも家が建てられた跡があったことから、畠地を住宅地へ変えた場所もあることが分かりました。



屋敷跡



道跡「ティラヌメー」

屋敷跡は道や溝で隣地との境界が作られ、敷地内には4本柱や6本柱の建物、井戸、方形の溜池等が配置されていたことが分かりました。

道跡は基盤目状に確認されており、幅が広い道跡は、北中城村石平から普天満宮を通り伊佐方面へと続く戦前の主要道路であった「ティラヌメー」や旧普天間集落を東西に分ける道であったことが分かりました。屋敷の中には沖縄戦前または戦中に作られた壕も見つかっており、その中に碗、皿、香炉、位牌等が集められているものがありました。食器や位牌などの家財を戦争から守るために一時的に避難させたと考えられます。

(知念 隆博)



井戸跡



石組造構



碗や皿などの集積



壕（※屋根部分は取り除いています）



キャンプ瑞慶覧の地区名

# 西普天間住宅地区試掘確認調査

所在地：キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区（返還跡地、宜野湾市）

調査年度：平成27・28年度

調査目的：遺跡の範囲・内容確認

平成27(2015)年3月31日にキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区が返還されたことに伴い、跡地利用に先立って埋蔵文化財の有無や範囲・性格を把握するため、宜野湾市教育委員会と沖縄県教育委員会（沖縄県立埋蔵文化財センター）で調査エリアを分担して試掘・確認調査を行いました。平成27・28(2015・2016)年度の試掘・確認調査によって新規発見した遺跡や範囲確認出来た遺跡のうち、今回は普天間旧道跡・安仁屋東原古墓群・喜友名下原第二遺跡について紹介します。

## 普天間旧道跡

平成27(2015)年度の住宅エリア東側の試掘・確認調査では、普天間旧道跡・安仁屋東原古墓群・普天間石川原第二遺跡の3遺跡を新規発見し、その性格及び遺跡範囲を確認しました。このうち、普天間旧道跡は、隣接する海軍病院地区の普天間古集落の発掘調査でも確認されている石組の側溝を有する旧道跡です。普天満宮前を通る普天間古集落の主要な道路で、「ティラヌマー」と呼ばれていました。サトウキビ運搬のためのトロッコ軌道が敷かれ、道路沿いには客馬車を休ませる馬車宿があったとされています。今回の調査によって、西普天間住宅地区跡地においても遺構が良好な状態で残されていることがわかりました。

## 安仁屋東原古墓群

近世～近代の古墓が完全に埋没した状態で発見されています。屋根部は戦後の改変によって失われていますが、墓室は良好な状態で残されています。基地建設に伴う大規模な造成によって埋没したと考えられます。



普天間旧道跡



道跡の側溝部分（普天間旧道跡）



埋没した状態で発見された古墓

## 喜友名下原第二遺跡

平成 28(2016) 年度の斜面縁地区域の試掘・確認調査では、6 遺跡の性格及び遺跡範囲を確認しました。このうち、喜友名下原第二遺跡の範囲では、グスク時代の集落跡が良好な状態で残存していることを確認しました。検出された遺構と包含層の分布からは、斜面地の中でも比較的の傾斜が緩やかな範囲に集落を形成していることが窺えました。

遺構は、グスク時代の掘立柱建物跡と考えられるピット群をはじめ、円弧状遺構や炉跡などが検出されました。また、近世～近代の耕作に伴う溝状遺構も確認されています。

遺物はグスク時代の中国産陶磁器やカムィヤキ、滑石製品、グスク土器などが出土しています。また、轍の羽口や鉄滓が出土しており、鉄滓の成分分析からは鍛錬鍛冶滓と推定され、周辺で鍛造鉄器の製作が行われていた可能性があります。



グスク時代の集落跡（喜友名下原第二遺跡）



円弧状遺構

特筆される遺構として、ピット内にグスク土器のほぼ一個体分の破片が自然礫とともに埋められた遺構が確認されました。ピット内に土器底部片の外底面を上向きにして埋めたあと、礫と土器口縁部片を同時に埋めています。何らかの意図を持って、ピット内に土器と礫を埋められたものと考えられます。出土土器に付着する炭化物と、埋土に含まれる炭化物について年代測定を行ったところ、補正年代は土器付着炭化物が 980 ± 20BP、埋土内炭化物が 935 ± 20BP、暦年代は 11 ~ 12 世紀と重なった年代値が得られています。

(具志堅 清大)



土器と礫を埋めたピット



出土したグスク土器

# 慶良間諸島の遺跡詳細分布調査

所 在 地：慶良間諸島（渡嘉敷村・座間味村）

調査年度：平成 22～27 年度

調査目的：遺跡の分布調査、遺跡範囲・内容確認

慶良間諸島では、これまでに縄文前期の爪形文土器が確認された船越原遺跡、縄文後期の竪穴住居址などが確認された古座間味貝塚、縄文時代晚期～弥生並行期の土器群が出土した阿波連浦貝塚などの調査が行われ、重要な調査成果が得られています。

近年、船越原遺跡の包含層が露頭し、爪形文土器が散布し自然崩壊の危機にあったため、船越原遺跡の保護を含めた慶良間諸島における遺跡詳細分布調査を平成 22～27(2010～2015) 年度に実施しました。

慶良間諸島における分布調査では、久場島と神山島以外の各島で踏査を行い、渡嘉敷島・儀志布島・前島・神山島・座間味島・屋嘉比島・安室島・嘉比島・安慶名敷島・阿嘉島・慶留間島の 11か所、合計 83 遺跡を数えることが判明しました。

先述した船越原遺跡と同じく渡嘉敷村の阿波連浦貝塚についても自然崩壊の危機があることが想定されたため、この 2 遺跡の保護と範囲確認のため、範囲確認調査を実施しました。

## 船越原遺跡の調査

船越原遺跡は、渡嘉敷島最南端の砂丘上に位置する遺跡で、爪形文土器が出土する遺跡として知られています。

今回の調査では、爪形文土器包含層の残存状況と範囲について確認することができました。爪形文土器は複数のタイプ（野国タイプ・ヤブチ式・東原式）がみられ、爪形文土器に後続する条痕文系土器も出土しています。また、爪形文土器包含層の前後層で緑色千枚岩や砂岩の疊集中地が検出され、船越原遺跡が沖縄本島への石材供給地であった可能性が想定されています。



船越原遺跡遠景



船越原遺跡の露頭した壁面



疊集中状況

## あはれんうら 阿波連浦貝塚の調査

阿波連浦貝塚は、渡嘉敷島南東側の砂丘地に位置します。沖縄国際大学考古学研究室による発掘調査では、上層（IV層）で乳房状尖底主体、下層（VI層）では頸部がくの字状でリボン状突起を持つ土器群が出土し、縄文時代晩期～弥生並行期の土器編年の指標として知られています。近年の研究では、上層（IV層）の土器は、浜屋原式段階（阿波連浦IV層土器群）、下層（VI層）の土器は「阿波連浦下層式」として位置づけられています。

今回の調査では、過去の調査で確認された層序を再確認することができ、貝集中遺構なども確認されています。さらに下層では新たな包含層と基盤層を確認できました。丘陵奥の西側に包含層が十分に残されていることが明らかにできました。



阿波連浦貝塚遠景



トレンチ検出状況



貝集中遺構検出状況

## 遺跡の保護

前述したように、船越原遺跡は爪形文土器の包含層が露頭し、遺跡の崩壊が進んでいる状況で、阿波連浦貝塚も風雨による遺跡の崩壊が進んでいる状況にありました。そのため、環境省の指導を受け、環境にも配慮したドレーンシート工法により調査終了後に包含層が露頭している部分の保護を行いました。  
(具志堅 清大)



船越原遺跡 法面保護後



阿波連浦貝塚 法面保護後

しらほさおねたばる

# 白保竿根田原洞穴遺跡

所 在 地：新石垣空港敷地内（石垣市）

調査年度：平成 22・24～28 年度

調査目的：記録保存（平成 22 年度）、重要遺跡範囲確認（平成 24～28 年度）

備 考：国指定史跡（令和 2 年 3 月 10 日）

白保竿根田原洞穴遺跡は石垣島の東海岸に形成された全長約 255 m におよぶ鍾乳洞の一角に所在します。本遺跡は、新石垣空港建設に伴って洞穴の測量調査を実施していた NPO 沖縄鍾乳洞協会（理事長：山内平三郎）によって発見された人骨群が、後期更新世（旧石器時代相当、以下略）の年代を示したことが契機となり周知されることになりました。その後、複数年にわたって実施された発掘調査と研究によって、本遺跡は国内でも数少ない人類遺跡と先史遺跡の複合遺跡であり、先島諸島はもとより、日本列島へ渡来してきた人たちの経路や、人類学的・文化的な系譜を解明できる可能性を有する遺跡と理解されるようになりました。

現在は国指定史跡として現地保存されており、今後の活用が期待されます。今回は数々の成果をいくつかのトピックに分けて紹介します。

## Topic 1：後期更新世から近世まで断続的に人に利用された複合遺跡

本遺跡は後期更新世（約 27,000 年前～）、完新世初頭（約 9,500 年前）、下田原期（約 4,000 年前）、無土器期（約 2,000 年前）、中森期（中世～近世）にわたって断続的に人に利用された沖縄県でもまれな洞穴遺跡であることがわかりました。



白保竿根田原洞穴遺跡（2010 年）

## Topic 2：先史時代の巨大津波の堆積を確認

先史時代（約2,000年前）の可能性が考えられる巨大津波の厚い堆積層が確認されました。遺跡の標高は約30mあるにもかかわらず、堆積層には軽石や海産貝、枝サンゴなどが含まれており、海からもたらされたことがわかります。

津波というと先島諸島では「明和の津波（1771年）」が有名ですが、これまで、津波石などからの調査によって、先島には過去4,500年間で数回の津波があり、その中でも、約2,000年前の津波は明和の津波をも凌ぐ巨大なものだったと推定された研究もあります。本遺跡で確認された津波堆積層はそのことを裏付ける証拠となるかもしれません。



津波堆積層の軽石



津波堆積層内の海産貝と枝サンゴ

## Topic3：下田原期の崖葬墓を確認

下田原期（約4,000年前）の遺跡はこれまで海岸低地で確認されていただけでしたが、本遺跡で下田原式土器や礫を敷き詰めたような遺構が確認されたことから、内陸部の洞穴も利用されていたことがわかりました。また、生活跡だけでなく、崖葬墓も確認され、少なくとも2体の被葬者が壁際に風葬されていることがわかりました。これまで生活跡は確認されていた下田原期ですが、お墓が確認されたのは初めてです。



下田原期の磚敷遺構



下田原期の崖葬墓

石灰岩礫を敷き詰めた遺構ですが、中にはこの周辺では産出しない火成岩礫も含まれており、人為的に持ち込まれたことがわかります。

解剖学的位置を保たない人骨が壁間に集められています。サザエの蓋などもみられるため、被葬者と一緒に供獻されたのかもしれません。

## Topic 4：完新世初頭の文化層を確認

これまで八重山では未確認だった完新世初頭（約9,500年前）の文化層が確認され、解体された痕跡（カットマーク）のあるイノシシ骨、石英製の石器、土器等が出土しました。完新世初頭の文化については沖縄島でもまだその痕跡が少なく謎が多く残されており、今後の調査・研究が注目されます。



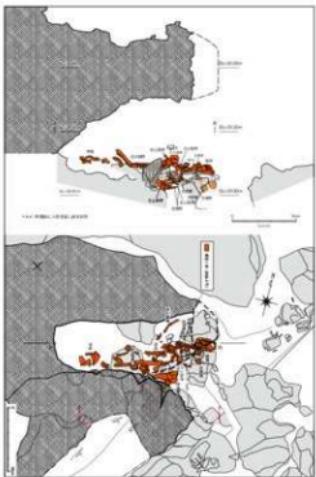
イノシシ骨、礫石器出土状況



土器出土状況

## Topic 5：後期更新世の墓葬を確認

遺跡の最下層からは、大量の後期更新世人骨が出土しました。八重山で後期更新世に属する人骨が確認されたのは初めてです。また、その出土状況から、後期更新世には洞穴全体が墓地として利用され、遺体も風葬されていたことがわかりました。その中でも4号人骨（約27,000年前、成人男性）は洞穴内のさらに狭い岩陰に、仰向の状態で、両足は胸の方に強く折り曲げ、両腕も両手が顔の近くにくるように肘を強く曲げた姿勢（仰臥屈葬）で風葬されたことがわかりました。後期更新世に相当する時期に人の葬り方が明らかとなったのは日本で初めての事例です。



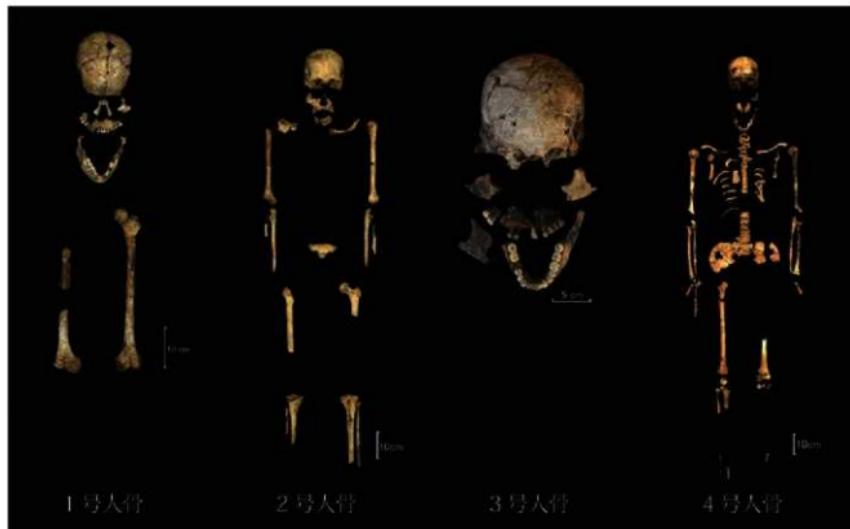
4号人骨発出状況



4号人骨が葬られた姿勢



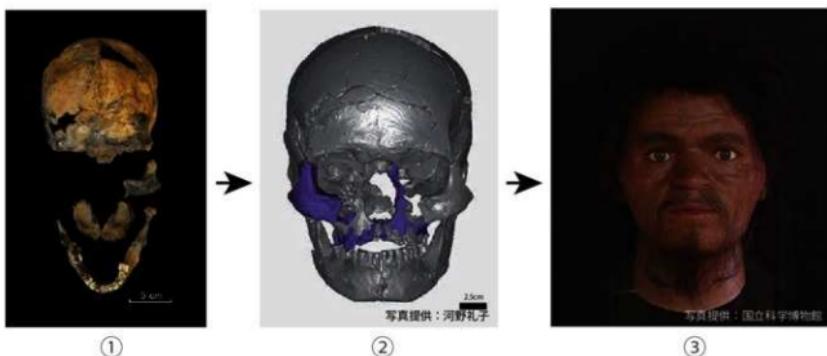
4号人骨が葬られた岩陰



個体識別された後期更新世人骨群

### Topic 6：後期更新世人骨（4号人骨）の復顔完成

4号人骨では、形質人類学の専門家と共同研究を行い、頭蓋骨を利用して顔貌の復元を行いました。約27,000年前の石垣島に生きた人類の顔です。現代沖縄人と比べてみて下さい。似てる？似てない？  
（片桐千亜紀）



- ①頭蓋骨を可能な限り接合する。
- ②頭蓋骨のそれぞれの部位をCTスキャンした3Dデータをもとに、デジタル上で離れた骨同士を接合し、頭蓋骨を復元する。
- ③復元された頭蓋骨データを3Dプリントし、科学的根拠に基づいた肉付けを行う。

# 宮古元島上方古墓群

所在地：宮古島市

調査年度：平成 19～24 年度

調査目的：記録保存調査

宮古元島上方古墓群は、宮古島市上野字宮國カムザマ地内に所在し、宮国集落東側の崖と台地上の一帯を墓域としています。県の道路改良工事事業に伴い、平成 19～24(2007～2012) 年度に記録保存のための発掘調査を行いました。

## 墓の特徴

調査の結果、石灰岩の露頭を利用した岩陰墓を主体とする古墓群であることがわかりました。崖面を掘り込んだ掘込墓や、石を積んで墓室とした石積墓も確認されています。

古墓からは多量の人骨と副葬品が出土しています。人骨は、墓室内に集骨された二次葬のものがほとんどです。ほぼ解剖学的位置を保つ一次葬の人骨も確認されており、風葬された可能性が指摘されています。



古墓の外観（15・17号墓）



墓室内の遺物出土状況（15号墓）

## 墓から出土した遺物

古墓からは、人骨とともに大型の沖縄産陶器や宮古式土器が出土しており、これらは納骨器として使用された可能性があります。このほかに沖縄産陶器の碗・瓶、中国産青花の碗・小杯、本土産の染付や近代磁器などの陶磁器類とともに、煙管や簪、錢貨、ガラス玉などが出土しており、これらは副葬品として考えられます。

副葬品のうち、煙管は殆どの墓から出土しています。かたちや素材はさまざまで、素材は石製・土製・瓦製・沖縄産陶器製・金属製のものがみられます。煙管が一般的な副葬品であったとともに、当時の喫煙文化のようすが窺えます。 （具志堅 清大）



墓から出土した遺物（15号墓）

## 資料整理・報告書刊行 … Column<sup>②</sup>

発掘調査によって作成された図面・写真・日誌などの記録類と出土した遺物は、将来的に保存・活用していくために整理を行う必要があります。大規模な発掘調査になると出土遺物や記録類が膨大となり、その整理に数年かかることもあります。資料整理を行った後、最終的に「調査報告書」として発掘調査の成果をまとめています。特に記録保存調査における調査報告書は、失われた遺跡の代わりとなる記録として重要なものです。

沖縄県立埋蔵文化財センターは、これまでに 107 冊の調査報告書を刊行しています（市町村教育委員会との共同刊行を含む。令和 2(2020) 年 8 月現在）。このうち、首里城跡および周辺関連遺跡の調査報告書が 55 冊で、その半数を占めています。続いて、米軍基地関係の調査報告書が 16 冊、沖縄本島および周辺離島の調査報告書 13 冊、宮古・八重山諸島の調査報告書 12 冊、戦争遺跡・沿岸遺跡といった沖縄県全域の調査報告書 11 冊となっています。

近年、デジタル技術の急速な進展とともに、資料整理および調査報告書の刊行に関する作業も変化してきています。以前は、実測図をロットリングペンでトレースして版下を作成し、紙による報告書のレイアウトを作成していました。現在では、デスクトップパブリッシング(DTP) ソフトの普及によって、パソコンの画面上でトレースし、デジタルデータによる報告書レイアウト作成が主流になっています。また、オルソ画像や 3D モデルを作成し、遺構や遺物の実測に用いる方法も主流になっており、資料整理だけでなく発掘調査に関する記録類も含めて、全般的にデジタル化が進んできています。

## 遺物の保管と活用 … Column<sup>③</sup>

平成 12(2000) 年度に当センターが設置されたことによって、それまで劣悪な環境で分散して保管されていた遺物や図面、写真等を一か所に集約して保管・活用することができるようになりました。

収蔵されている遺物は、当センターでの展示会をはじめ、沖縄県内離島での出張展示などによって、一般の方々に公開しています。また、沖縄県内だけでなく国内外の博物館への遺物の貸し出しも行っているほか、国内外の研究者等が実際に来所して資料調査を行い調査研究に活用されるなど、様々な方面で利用されています。

なお、収蔵庫の収容能力は遺物収納用コンテナ (40 × 60 × 20 cm) で換算すると、約 26,000 箱ですが、センター設立以前の調査で得られたものも含め、約 25,600 箱分もの遺物が収納されており、現在新たな収蔵スペースを確保するための準備を進めているところです。

# 【刊行報告書一覧】

| 番号   | 報告書名  | 刊行年月           | 番号    | 報告書名                                      | 刊行年月                  |
|------|---|----------------|-------|---|-----------------------|
| 第1集  | 百里城跡 - 佐賀県道場地区周辺発掘調査報告書-                                    | 平成13(2001)年3月  | 第56集  | 百里城跡 - 京の内蔵助跡発掘調査報告書(Ⅲ) - 平成6年度調査         | 平成23(2011)年3月         |
| 第2集  | 天界寺跡 (I) - 一色里町地下駐車場入り口新工事に伴う - 平成13(2001)年3月               |                | 第57集  | 龍水井原原A道路 - 龍水井原西道路建設に伴う発掘調査報告書 -          | 平成23(2011)年3月         |
|      | 緊急災害調査 -  |                | 第58集  | 中城御跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書                | 平成23(2011)年3月         |
| 第3集  | 百里城跡 - 下之田跡、南門跡、瑞門跡、洞門跡、廣 - 平成13(2001)年3月                   |                | 第59集  | （2） -                                     |                       |
|      | 福門跡、木門跡地質調査報告書 -  |                | 第60集  | 百田跡 - 京の北地区周辺発掘調査報告書 -                    | 平成23(2011)年3月         |
| 第4集  | 伊佐原原第一通路 - 一宮北地区の城跡 (伊佐原一) 天界寺跡 -                           | 平成13(2001)年3月  | 第61集  | 百田跡 - 京の北地区周辺発掘調査報告書 -                    | 平成23(2011)年3月         |
| 第5集  | 半崎城跡 - 周辺地帯の城跡 (半崎) -                                       | 平成13(2001)年3月  | 第62集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 -                   | 平成24(2012)年3月         |
| 第6集  | サザンガタ - カブツガタ - 一宮市小山町水谷水事業 (カブツガタ) - 佐賀県立水谷水施設 - 一宮保土上地跡 - | 平成13(2001)年12月 | 第63集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 (IV) - 平成6年度調査      | 平成24(2012)年3月         |
| 第7集  | 斬尾山跡 (上) 地上台地跡 - 新里美之島遺跡 - 一宮保土上地跡 -                        | 平成14(2002)年3月  | 第64集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 (V) - 平成6年度調査       | 平成24(2012)年3月         |
| 第8集  | 天界寺跡 (II) - 一宮百里城公園施設整備工事に伴う緊急災害調査 -                        | 平成14(2002)年3月  | 第65集  | 百里城跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書 -              | 平成24(2012)年3月         |
| 第9集  | 百里城跡 - 繼世門南辺地区発掘調査報告書 -                                     | 平成14(2002)年3月  | 第66集  | 百里城跡 - 保存・活用のための発掘調査報告書 -                 | 平成24(2012)年3月         |
| 第10集 | 円覚寺跡 - 道構跡発掘調査報告書 -   | 平成14(2002)年3月  | 第67集  | 白保原 - 佐賀県立洞門河内遺跡 - 新石器空港建設工事に伴う緊急災害調査 -   | 平成25(2013)年3月         |
| 第11集 | 基地内文化財 II - 基地内埋蔵文化財分布調査概要 -                                | 平成14(2002)年3月  | 第68集  | 百里城跡 - 一宮北地区周辺発掘調査報告書 -                   | 平成25(2013)年3月         |
| 第12集 | 沖縄戦争遺跡詳細分布調査 (I) - 中部編 -                                    | 平成14(2002)年3月  | 第69集  | 百里城跡 - 一宮北地区周辺発掘調査報告書 (II) -              | 平成25(2013)年3月         |
| 第13集 | 緑門跡 - 一宮百里城跡周辺地盤地質調査報告書 -                                   | 平成15(2003)年3月  | 第70集  | 百里城跡 - 一宮北地区周辺発掘調査報告書 (III) -             | 平成25(2013)年3月         |
| 第14集 | 百里城跡 - 右門跡及び隣接辺境地区発掘調査報告書 -                                 | 平成15(2003)年3月  | 第71集  | 基地内文化財 - 平成14・19・20年 - 佐賀県用行場内試掘調査 -      | 平成26(2014)年3月         |
| 第15集 | 百里城跡 - 一宮市北地区周辺発掘調査報告書 -                                    | 平成15(2003)年3月  | 第72集  | 百里城跡 - 一宮北地区周辺発掘調査報告書 -                   | 平成26(2014)年3月         |
|      | 並並跡 - 一宮市鶴見町利根野所付近地盤地質調査 -                                  |                | 第73集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 (V) - 平成6年度調査       | 平成26(2014)年3月         |
| 第16集 | 沖縄戦争遺跡詳細分布調査 (III) - 北中部編 -                                 | 平成15(2003)年3月  | 第74集  | キャンプ瑞慶園周辺地盤地質調査報告書 -                      | 平成27(2015)年3月         |
| 第17集 | 巣屋跡 - 道構跡発掘調査報告書 -  | 平成15(2003)年3月  | 第75集  | 天間原集落跡 - 沖縄戦の戦争遺跡 -                       | 平成22~26年度戦争遺跡詳細調査実績 - |
| 第18集 | 百里城跡 - 一宮の北地区周辺発掘調査報告書 -                                    | 平成16(2004)年3月  |       | （2） - 平成27(2015)年3月                       |                       |
| 第19集 | 百里城跡 - 城郭跡周辺地区発掘調査報告書 -                                     | 平成16(2004)年3月  | 第76集  | 基地内文化財 - 大山良和山周囲第四通跡確認調査 - 神山黒原古平 -       | 平成27(2015)年3月         |
| 第20集 | 百里城跡 - 東のアザナ地区発掘調査報告書 -                                     | 平成16(2004)年3月  | 第77集  | 百里城跡 - 佐賀県立洞門河内遺跡 -                       | 基跡群の布調査 -             |
| 第21集 | 与那国島 - 嘉手田古墳群 - 嘉手田地区周辺整備事業に伴う緊急災害調査報告書 -                   | 平成16(2004)年3月  | 第78集  | 基地内文化財 - 大山良和山周囲第四通跡確認調査 - 神山黒原古平 -       | 平成27(2015)年3月         |
| 第22集 | 後原跡 - 原原跡 -   | 平成16(2004)年3月  | 第79集  | 百里城跡 - 一般地区発掘調査報告書 -                      | 平成27(2015)年3月         |
| 第23集 | 基地内空港用地付近地盤地質調査 -   | 平成16(2004)年3月  | 第80集  | 百里城跡 - 佐賀県立洞門河内遺跡 -                       | 基跡群の布調査 -             |
| 第24集 | 基地内空港用地付近地盤地質調査 (平成14・15年度) -                               | 平成16(2004)年3月  | 第81集  | 慶雲館跡の道路 - 平成22~27年度県内道路詳細分布調査 -           | 平成28(2016)年2月         |
| 第25集 | 沖縄戦争遺跡詳細分布調査 (IV) - 本島高麗灘魚及び那鹿 -                            | 平成16(2004)年3月  | 第82集  | 慶雲館跡 - 佐賀県立洞門河内遺跡 -                       | 告書 -                  |
| 第26集 | ナガシタカリヤマの古墓群 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                          | 平成17(2005)年3月  | 第83集  | 百里城跡 - 一宮北地区周辺発掘調査報告書 -                   | 平成28(2016)年3月         |
| 第27集 | 事に付く発掘調査報告書 -   |                | 第84集  | 百里城跡 - 正殿跡地区発掘調査報告書 -                     | 平成28(2016)年3月         |
| 第28集 | 百里城跡 - 上の山と隣接辺境地区発掘調査報告書 -                                  | 平成17(2005)年3月  | 第85集  | キャンプ瑞慶園周辺地盤地質調査報告書に係る文化財発掘調査報告書2 -        | 平成28(2016)年3月         |
| 第29集 | 百里城跡 - 一色の山と隣接辺境地区発掘調査報告書 -                                 | 平成17(2005)年3月  | 第86集  | 天間原集落跡 -                                  | 天間原集落跡 -              |
| 第30集 | 百里城跡 - 二階門跡地区発掘調査報告書 -                                      | 平成17(2005)年3月  | 第87集  | 百里城跡 - 沿岸の水路跡 -                           | 平成22~26年度戦争遺跡詳細調査実績 - |
| 第31集 | 沖縄戦技術大学院大学 (飯田) 建設予定地の道路 (I) - 理工大学文化財遺跡 (鹿島) 説明 -          | 平成17(2005)年5月  | 第88集  | 百里城跡 - 一色の山と隣接辺境地区発掘調査報告書 -               | 平成28(2016)年2月         |
| 第32集 | 高津原跡 - 一色里鶴見真鍋地区発掘調査報告書 (I) -                               | 平成18(2006)年3月  | 第89集  | 百里城跡 - 沿岸の水路跡 -                           | 平成22~27年度県内道路詳細分布調査 - |
| 第33集 | 百里城跡 - 一色の山と隣接辺境地区発掘調査報告書 -                                 | 平成18(2006)年3月  | 第90集  | 百里城跡 - 一色の山と隣接辺境地区発掘調査報告書4 -              | 平成28(2016)年3月         |
| 第34集 | 百里城跡 - 郡内地区発掘調査報告書 -  | 平成18(2006)年3月  | 第91集  | 百里城跡 - 一色の山と隣接辺境地区発掘調査報告書 (I) -           | 平成28(2016)年3月         |
| 第35集 | 新橋跡第二通路 - キャンプ瑞慶園敷地内整備工事に係る緊急災害調査 -                         | 平成18(2006)年3月  | 第92集  | 東村跡 - 一色里立原屋久生坂支派センター建設に伴う緊急災害調査 -        | 平成28(2016)年3月         |
| 第36集 | 沖縄戦技術大学院大学 (飯田) 建設予定地の道路 (II) - 理工大学文化財遺跡 (鹿島) 説明 -         | 平成18(2006)年3月  | 第93集  | 中城御跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書 -              | 平成28(2016)年3月         |
| 第37集 | 沿岸地帯道路分布調査報告書 (I) - 冲縄本島・高麗灘魚帯 -                            | 平成18(2006)年3月  | 第94集  | 中城御跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書 (II) - 事務室解説 - | 平成28(2016)年3月         |
| 第38集 | 基地内文化財 IV - 平成15・16年度基地内埋蔵文化財分布調査概要 -                       | 平成18(2006)年3月  | 第95集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 -                   | 平成28(2016)年3月         |
| 第39集 | 西原跡 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                                   | 平成18(2006)年3月  | 第96集  | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 -                   | 平成28(2016)年3月         |
| 第40集 | 御茶屋跡 - 平成15・16・17年度道構跡発掘調査報告書 (V) - 一宮古湯易編 -                | 平成18(2006)年3月  | 第97集  | 百里城跡 - 一宮の北地区周辺発掘調査報告書 -                  | 平成30(2018)年3月         |
| 第41集 | 沖縄戦争遺跡詳細分布調査 (V) - 一宮古湯易編 -                                 | 平成18(2006)年3月  | 第98集  | 百里城跡 - 一色のアザナ地区周辺発掘調査報告書 -                | 平成30(2018)年3月         |
| 第42集 | 真珠港跡 - 一里原跡真鍋地区発掘調査報告書 (II) -                               | 平成19(2007)年3月  | 第99集  | 神山集落 - 一宮用行場の堀と水脈の埋設設置箇所に伴う発掘 -           | 平成31(2019)年3月         |
| 第43集 | 与那国島 - 潮原古跡 - 与那国空港建設工事に係る緊急災害調査 -                          | 平成19(2007)年3月  | 第100集 | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 -                   | 平成31(2019)年3月         |
| 第44集 | 百里城跡 - 郡内西地区地盤地質調査報告書 -                                     | 平成19(2007)年3月  | 第101集 | 大原跡 - 一宮郡立港事務所管轄区新築工事に伴う埋設工事 -            | 平成31(2019)年3月         |
| 第45集 | 百里城跡 - 黄金御跡地区発掘調査報告書 -                                      | 平成19(2007)年3月  | 第102集 | 中城御跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書 -              | 平成31(2019)年3月         |
| 第46集 | 溝地村跡 - 露頭調査 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                           | 平成19(2007)年7月  | 第103集 | 百里城跡 - 美福川通道路地区発掘調査報告書 -                  | 令和2(2020)年2月          |
| 第47集 | 百里城跡 - 下之田跡百森森地区地盤地質調査報告書 -                                 | 平成20(2008)年3月  | 第104集 | 中城御跡 - チューブワ海底文化財分布調査 -                   | 令和2(2020)年3月          |
| 第48集 | 眞珠港跡 - 一里原跡真鍋地区発掘調査報告書 (II) -                               | 平成20(2008)年3月  | 第105集 | 眞珠港跡 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                | 令和2(2020)年3月          |
| 第49集 | 百里城跡 - 一宮の内蔵助跡発掘調査報告書 (II) -                                | 平成21(2009)年3月  | 第106集 | 百里城跡 - 一宮百里城公園 龍潭街商店街に伴う発掘調査報告書 -         | 令和2(2020)年3月          |
| 第50集 | 百里城跡 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                                  | 平成21(2009)年3月  |       |   |                       |
| 第51集 | 百里城跡 - 真珠港跡 - 一色郷細削地原宿地塊区域内地盤工事 -                           | 平成21(2009)年3月  |       |   |                       |
| 第52集 | 沿岸地帯道路分布地盤地質調査報告書 (II) - (I) -                              | 平成21(2009)年3月  |       |   |                       |
| 第53集 | 中城御跡 - 一宮百里城公園 中城御跡発掘調査報告書 -                                | 平成22(2010)年3月  |       |   |                       |
| 第54集 | 百里城跡 - 一宮の北地区周辺発掘調査報告書 (I) -                                | 平成22(2010)年3月  |       |   |                       |
| 第55集 | 沿岸地帯道路分布地盤地質調査 (II) - (I) -                                 | 平成22(2010)年3月  |       |   |                       |

発掘調査によって出土した遺物の中には、金属製品や木製品、石造物などの時間とともに劣化していく材質のものが含まれます。これらの遺物を長期的な保存や公開等に活用するため、平成19(2007)年度から文化庁の補助を受けて保存処理を実施しています。

平成19(2007)年度から令和元(2019)年度にかけて、これまでに金属製品・木製品・石造物242点の保存処理を実施しました。平成19～21(2007～2009)年度は、沖縄県内の遺跡から出土した遺物のうち、首里城跡や円覚寺跡出土の金属製品や渡地村跡出土の木製品などの保存処理が必要な遺物を選定し、まとめて保存処理を行いました。平成27(2015)年度からは、首里城跡や中城御殿跡(県立博物館跡地)などの発掘調査によって出土した金属製品・石造物の保存処理を実施しています。このほかに、発掘調査で応急処置として保存処理を行う場合もあります。

保存処理には専用の機材や薬品が必要なため、専門とする業者に委託しました。金属製品は腐食を促す錆の除去や脱塩処理・樹脂含浸による処理、木製品は高級アルコール法による処理を行った後、接合作業と樹脂による補強を行いました。石造物は、石材強化剤の含浸による処理後、亀裂や剥離部分は接合・樹脂による強化補填を行いました。保存処理を行った金属製品は、錆の進行を防ぐために、空気を通さない特殊な袋に無酸素状態で密封して保管しています。

このように専門的なクリーニングと化学的な保存処理を行ったことで、劣化への耐久性が増し、出土した状態に近いかたちでの長期的な保存・保管が可能となりました。そして、從来まで公開展示することが難しかったものも、積極的な活用ができるようになりました。

## 【保存処理委託一覧】

| 年度             | 遺跡   | 遺物  |
|----------------|--|---|
| 平成19<br>(2007) | 首里城跡(北殿地区、南殿地区、結所地区、鏡之間地区、木更津門地区、東のアザナ地区、城前南側下地区)、円覚寺跡、渡地村跡、伊佐原前第一通跡、後兼久原通跡、船橋通跡、上村道跡                                | 鉄・青銅製品(鉄斧・クリス・鏡形台・飾り金具・銅鏡等)25点<br>木製品(箸・皿・瓶瓶・木机等)29点 計54点 |
| 平成20<br>(2008) | 首里城跡(北殿地区、御内原地区、下之御内地区、奉神門地区、鏡之間地区、東のアザナ地区、用物座地跡、廣瀬門地区、城の下地区)、円覚寺、天界寺跡、真珠道跡、新城下原第二通跡、カシジン原古墓群、新里村西通跡南辺、慶連庵城道跡、船橋スラ所跡 | 鉄・青銅製品(刀・鏡・鏡形台・小札・八双金具・理座等)25点<br>木製品(木机・漆製品・木盤等)18点 計43点 |
| 平成21<br>(2009) | 首里城跡(北殿地区、南殿地区、御内原地区、御内原西地区、御庭地区、結所地区)、円覚寺跡、天界寺跡、真珠道跡、拜山通跡、阿波根古島通跡、ヤッチのガマ、カンドウ原通跡、大泊浜貝塚、カイジ浜貝塚、南洋漆器庄通跡               | 鉄・青銅製品(鏡・鏡形台・八双金具・飾り金具・銅鏡等)25点<br>木製品(船具・板材・壺等)12点 計37点   |
| 平成22<br>(2010) | 首里城跡(海原門西地区、西のアザナ地区)   | 鉄・青銅製品(狀様・鉗・刀子・立物・八双金具・金鉢等)30点                            |
| 平成23<br>(2011) | 首里城跡(正殿地区)   | 青銅製品(鐸・刀身・印章・切羽・八双金具・鏡・梵鐘等)38点                            |
| 平成24<br>(2012) | 首里城跡(正殿地区、北殿地区、東のアザナ地区)、天界寺跡、大日寺跡  | 石造物(金剛力士像・勾欄羽目板・石碑・勾欄柱・龍柱等)22点                            |
| 令和元<br>(2019)  | 中城御殿跡(旧県立博物館跡地)  | 青銅製品(香炉・長徳花瓶・耳杯・蓋・座金・飾り金具等)18点                            |
| 合計             |  | 242点  |

## 東日本大震災に伴う復興支援派遣

平成 23(2011) 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、岩手県・宮城県・福島県を中心に巨大地震と津波の甚大な被害を受け、多くの方が犠牲になりました。死者・行方不明者数は 18,428 人、建築物の全壊・半壊は合わせて 404,893 戸に及びました（令和 2(2020) 年 6 月警察庁広報資料）。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって多くの人々が避難を余儀なくされました。

被災者の住居を安全な場所に確保するための防災集団移転（集落の高台移転）や土地区画整理事業、個人住宅建設等に伴う開発によって埋蔵文化財が破壊される場合、復旧・復興事業に先立って記録保存のための発掘調査を行う必要があり、震災復興と埋蔵文化財保護の両立が課題となりました。

復旧・復興事業に伴う発掘調査を迅速に進めるため、文化庁は全国の都道府県・市町村・公益法人調査組織に専門職員の派遣を呼びかけ、被災地の埋蔵文化財保護のために全国から多くの専門職員が派遣されました。復興事業に伴う調査は、まず遺跡の有無や範囲・内容を把握するための分布調査と試掘・確認調査が行われました。本発掘調査は、復興事業に影響を与えないよう、専門職員複数名の体制で調査期間を短縮しての調査となりました。

沖縄県からは、平成 25・26(2013・2014) 年度に福島県、平成 27(2015) 年度に岩手県に専門職員を派遣しました。

## 平成 28 年熊本地震に伴う復興支援派遣

平成 28(2016) 年 4 月 14 日夜及び 16 日未明に発生した熊本地震でも、多くの方が犠牲となりました。東日本大震災と同様に、この地震でも熊本城や阿蘇神社をはじめ、多くの文化財が大きな被害を受けました。熊本地震の際も全国から専門職員が派遣され、熊本城をはじめとする文化財の修復や復興に伴う発掘調査が行われています。沖縄県からは、令和元(2019) 年度に熊本市へ専門職員を派遣しました。

### ○ 各地の被災状況



津波により破壊された防潮堤（南相馬市）



崩落した熊本城の石垣

(写真提供：熊本城総合事務所)

## ○福島県



福島県南相馬市 鹿島地区右田海老地区  
海岸防災林 分布調査



福島県相馬市 八沢地区 ほ場整備 試掘調査



福島県南相馬市 上浜佐原田遺跡 作業風景

## ○岩手県



岩手県釜石市 小白浜遺跡 試掘調査



岩手県大槌町 赤浜Ⅲ遺跡 作業風景

## ○熊本県熊本市



熊本城 飯田丸五階 榆台 解体調査

(写真提供：熊本城総合事務所)



熊本城 平櫓台 調査風景

(写真提供：熊本城総合事務所)

# 普及事業

沖縄県立埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究及び保存を行うとともに、埋蔵文化財の活用や普及・啓発にも取り組んできました。ここではその一端をご紹介します。

## 企画展の開催

### 1. 「発掘調査速報」展

通常、発掘調査開始から出土品を整理し報告書の刊行まで数年を要することから、当センターでは、前年度の発掘調査で得られた最新の情報を紹介する「発掘調査速報」展を毎年開催しています。

### 2. 特別展

特定の考古資料や時期、地域などをテーマにして出土品を公開する企画展です。

### 3. 重要文化財公開首里城京の内跡出土品展

当センターで所蔵する首里城京の内跡の出土品は、歴史上学術的価値が高く、国の重要文化財(考古資料の部)に指定されております。重要文化財公開「首里城京の内跡出土品展」は、毎年1回、首里城京の内跡出土品資料を中心にテーマを設け開催する企画展です。

### 4. 沖縄県の戦争遺跡展

当センターでは、文化庁の補助を受けて平成22～26(2010～2014)年度までの5か年にわたり、県内に所在する1,077カ所の戦争遺跡の内145遺跡について、詳細確認調査を実施しました。その成果を踏まえて、平成28(2016)年度より「沖縄県の戦争遺跡」展を開催しています。

## 文化講座

当センターでは、埋蔵文化財に関連する諸分野の有識者や当センター職員による文化講座を開催しています。今回開催する「20周年記念講座」で第85回を迎え、これまでの20年間で様々な文化講座を多くの皆様に提供することができました。

## 体験学習

平成12(2000)年度より「土器作り」や「石器作り」、「アクセサリー作り」、「火おこし」、「原始生活体験」などの体験学習を行っており、毎回親子で参加される方が多く、好評をいただいております。

## 現地説明会

発掘調査の成果を直接発掘現場で見てもらうため、現地説明会を開催しております。

## 出前授業

埋蔵文化財への県民の皆様の理解をより深めてもらうため、当センターで所蔵する資料を用いた「出前授業」を実施しております。

## 団体見学・職場体験

当センターでは、常時団体見学を受け付けております。事前に申し込んで頂ければ担当職員により、施設内をご案内いたします。また小学校、中学校、高等学校、大学を中心に職場体験の受け入れも行っています。

以上のように、埋蔵文化財を保存し未来に継承するとともに、地中に埋もれていた先人達の価値観に触れる多くの機会を提供できるよう今後とも努めて参ります。

(大城 妃左緒)

# 【企画展一覧】

| 年度             | テーマ   | 開催期間               | 年度             | テーマ   | 開催期間               |
|----------------|---|--------------------|----------------|---|--------------------|
| 平成12<br>(2000) | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～賀麻陶器からみた大文治時代～」         | 平成12年9月29日～6月1日    | 平成25<br>(2013) | 発掘調査速報編2013<br>重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 文様に込められた想い」              | 平成25年9月30日～9月29日   |
| 平成13<br>(2001) | 平成12年度発掘調査速報展                               | 平成13年3月31日～9月2日    | 平成26<br>(2014) | 発掘調査速報編2014<br>重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～蘇る。遺物からの宝物～」             | 平成26年1月3日～11月3日    |
| 平成14<br>(2002) | 平成13年度発掘調査速報展                               | 平成14年2月2日～3月3日     | 平成26<br>(2015) | 発掘調査速報編2015<br>東日本大震災の復興支援～埋蔵文化財の発掘調査と文化財レスリュー～（ヨルル屋・扇民ホール） | 平成27年7月22日～12月21日  |
| 平成15<br>(2003) | 文化財保護週間にせて（県庁ロビー）                           | 平成14年3月26日～4月1日    | 平成27<br>(2016) | 東日本大震災の復興支援～埋蔵文化財の発掘調査と文化財レスリュー～（ヨルル屋）                      | 平成27年8月8日～10月4日    |
| 平成16<br>(2004) | 発掘調査速報移動展2003（県庁ロビー）                        | 平成14年11月5日～8日      |                | ふたつの中城面臨  | 平成27年10月16日～12月13日 |
| 平成17<br>(2005) | 復縫後30年間の県内発掘調査展                             | 平成14年11月16日～12月22日 |                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 発見！百鬼の食い心地！」                            | 平成28年2月23日～5月15日   |
|                | 発掘調査速報版2003                                 | 平成15年7月29日～8月31日   |                | 沖縄県の戦争遺跡  | 平成28年6月7日～         |
| 平成18<br>(2006) | 発掘調査速報移動展2003（県庁ロビー）                        | 平成15年9月20日～10月24日  |                | 済田古墓群出土品展～琉球集落の朝昇～  | 平成28年6月21日～7月17日   |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展」                        | 平成16年1月15日～2月2日    |                | 発掘調査速報版2016   | 平成28年8月2日～         |
| 平成19<br>(2007) | 馬鹿廬～沖縄考古学調査100年～（ロビーエリア）                    | 平成16年1月15日～12月24日  |                | 文化財を復興の力へ（ヨルル屋）   | 9月4日               |
| 平成20<br>(2008) | 発掘調査速報版2004                                 | 平成16年7月27日～        |                | 文化財を復興の力へ（ヨルル屋・扇民ホール）                                       | 平成28年10月25日～       |
| 平成21<br>(2009) | 発掘調査速報移動展2004（那覇市中央公民館）                     | 9月5日               |                | 「私たちの文化財」図面作品集（ロビーエリア）                                      | 平成29年3月6日～3月10日    |
| 平成22<br>(2010) | 沖縄県内出土の相転陶器展                                | 平成16年9月10日～11月28日  | 平成22<br>(2011) | 移動展「白保辛那那洞穴遺跡」（八重山博物館）                                      | 平成28年11月16日～12月4日  |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 展場の裏～首里城京の内蔵にもたらされた逸品～」 | 23日                |                | 琉球大学教育学部ラボの面 埼蔵文化財センター始の新聞（ロビーエリア）                          | 1月16日              |
| 平成23<br>(2011) | 発掘調査速報版2005                                 | 平成17年7月26日～9月4日    |                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 花の里」                                    | 平成29年1月15日         |
|                | 発掘調査速報版2005                                 | 平成17年9月12日～16日     |                | 「花」の世界（ロビーエリア）  | 5月14日              |
| 平成24<br>(2012) | 沖縄県立沖縄考古学調査100年～（ロビーエリア）                    | 平成17年1月18日～23日     |                | 緊急公開「白保辛那那洞穴遺跡1～4号人骨」                                       | 平成29年5月20日～28日     |
| 平成25<br>(2013) | 発掘調査速報版2006                                 | 平成17年7月26日～9月4日    |                |   |                    |
|                | 発掘調査速報版2006（恩納村博物館）                         | 平成18年1月12日～23日     |                |   |                    |
| 平成26<br>(2014) | 土の中からあらわされた金属製品～甦った金属製品の輝き～                 | 平成18年1月24日～11月26日  | 平成29<br>(2017) | 沖縄県の戦争遺跡（バネル版）  | 平成29年6月6日～         |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 陶器篇～もたらした陶器～」           | 21日                |                | 巡回展「発掘調査速報2017」（宮古島市総合博物館）                                  | 平成30年1月16日～2月4日    |
| 平成27<br>(2015) | 多和田淳先生誕生百年記念 多和田淳先生の研究と遺産と想出した連絡            | 平成19年1月23日～10月28日  |                | 巡回展「発掘調査速報2017」（恩納村博物館）                                     | 平成30年2月1日～         |
|                | 重要文化財公開企画展「首里城京の内蔵出土品展～青花の世界で繋ぐ～」           | 27日                |                | 移動展「下原田貝塚出土品展」（波照間公民館）                                      | 平成30年9月15日～17日     |
|                | 発掘調査速報版2006                                 | 平成19年3月23日～6月10日   |                | おきなわむかしかわ   | 平成30年10月24日～       |
|                | 発掘調査速報版2007                                 | 平成19年3月24日～9月2日    |                | 巡回展「発掘調査速報2017」（恩納村博物館）                                     | 平成30年1月16日～        |
| 平成29<br>(2007) | 背面調査速報／「キル賀2007」（八重瀬町立貝志頭歴史民俗資料館）           | 平成19年3月29日～9月16日   |                | 巡回展「発掘調査速報2017」（宮古島市総合博物館）                                  | 平成30年2月2日～         |
|                | 多和田淳先生誕生百年記念 多和田淳先生の研究と遺産と想出した連絡            | 平成19年9月29日～10月28日  |                | 巡回展「重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 探索し切らん！」                            | 平成30年3月30日～        |
|                | 重要文化財公開企画展「首里城京の内蔵出土品展～青花の世界で繋ぐ～」           | 27日                |                | 巡回展「沖縄県の戦争遺跡～前田高島から首里まで～」（バネル版）                             | 平成30年6月5日～まで       |
|                | 発掘調査速報版2008                                 | 平成20年1月29日～8月31日   |                | 巡回展「移動展「白4号人骨」（八重山博物館）                                      | 平成30年7月26日～        |
|                | 那原人の秘密～工夫・天然素材（貝殻・骨・角・貝）の活用について～            | 平成20年2月30日～11月3日   |                |   | 29日                |
| 平成28<br>(2016) | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 土からくづくられた絆の宝物「小型青磁」     | 平成21年1月24日～2月7日    |                | 巡回展「発掘調査速報2017」（伊江村農村環境改善センター）                              | 平成30年12月7日～        |
|                | 「今明るくされる沖縄沖縄～考古学・人類学研究の新航路」開講（ヨルル屋）         | 2月7日               |                | 巡回展「移動展「唐慶田遺跡出土品」（わいわいわい）                                   | 9日                 |
|                | 発掘調査速報版2008                                 | 平成20年7月29日～8月23日   |                | 巡回展「唐慶田遺跡出土の西表コイン（ロビーエリア）                                   | 平成30年12月26日～       |
|                | 那原人の秘密～工夫・天然素材（貝殻・骨・角・貝）の活用について～            | 平成20年9月30日～        |                | 巡回展「発掘調査速報2018」（伊江村農村環境改善センター）                              | 平成31年1月8日～         |
| 平成29<br>(2017) | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 土からくづくられた絆の宝物「小型青磁」     | 平成21年1月24日～2月7日    |                | 巡回展「重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 大交易（時の理財と日本）」                       | 1月19日～15日          |
|                | 「今明るくされる沖縄沖縄～考古学・人類学研究の新航路」開講（ヨルル屋）         | 2月7日               |                | 巡回展「沖縄県の戦争遺跡～生徒・学生と共に学ぶ～（人骨・令和元年6月4日～6月12日）                 | 1月25日              |
|                | 発掘調査速報版2009                                 | 平成21年7月22日～8月23日   |                | 巡回展「発掘調査速報2018」（伊江村農村環境改善センター）                              | 平成31年11月23日～       |
| 平成30<br>(2018) | 考古資料による日本・沖縄                                | 平成21年8月29日～11月6日   |                | 巡回展「唐慶田遺跡出土品」（わいわいわい）                                       | 12月13日             |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 大交易（時の理財と日本）」           | 平成22年1月23日～2月7日    |                |   | 9日                 |
|                | 発掘調査速報版2010                                 | 平成22年1月23日～8月22日   |                | 巡回展「唐慶田遺跡出土の西表コイン（ロビーエリア）                                   | 27日                |
| 平成31<br>(2019) | 移動展示発掘調査速報版2010（今帰仁暨史文化センター）                | 平成22年1月4日～19日      |                | 巡回展「発掘調査速報2018」（伊江村農村環境改善センター）                              | 平成31年1月8日～         |
|                | 10周年展示～復文センター10年の歩み～                        | 平成22年2月19日～11月21日  |                | 巡回展「重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展 大交易（時の理財と日本）」                       | 1月19日～             |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～喜翠～」                    | 平成23年1月29日～2月13日   |                | 巡回展「沖縄県の戦争遺跡～生徒・学生と共に学ぶ～（人骨・令和元年6月4日～6月12日）                 | 1月25日              |
|                | 発掘調査速報版2011                                 | 平成23年7月20日～8月11日   |                | 巡回展「発掘調査速報2019」   | 令和元年2月30日～         |
| 平成32<br>(2020) | 沖縄いしの考古学                                    | 平成23年8月11日～11月20日  |                | 巡回展「唐慶田遺跡～9月1日～9月1日」  | 9月1日               |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～喜翠～」                    | 平成24年1月28日～2月12日   |                | 巡回展「唐慶田遺跡～1月29日～1月29日」                                      | 1月29日              |
|                | 沖縄県立沖縄考古学                                   | 平成23年9月1日～3月1日     |                | 巡回展「移動展「那国島の遺跡開拓～トゥグルル浜跡」                                   | 令和元年1月23日～         |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～喜翠～」                    | 平成24年2月21日～3月11日   |                | 特別企画展「首里城正殿跡出土品展」   | 令和元年2月10日～         |
|                | 発掘調査速報版2012                                 | 平成24年2月27日～8月19日   |                |   | 6月30日              |
| 平成33<br>(2021) | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～喜翠～」                    | 平成24年3月3日～5月5日     |                | 巡回展「沖縄県の戦争遺跡～歩いていく戦争跡～（人骨・令和元年2月8日～10月4日）                   | 2月8日～              |
|                | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展～喜翠～」                    | 平成24年3月3日～5月5日     |                |   | 10月4日～2日           |
|                | 発掘調査速報版2013                                 | 平成24年3月3日～5月5日     |                | 巡回展「沖縄県の戦争遺跡～歩いていく戦争跡～（人骨・令和元年2月8日～10月4日）                   | 10月4日～2日           |
| 平成34<br>(2022) | 重要文化財公開「首里城京の内蔵出土品展」                        | 平成25年1月3日～5月5日     |                | 巡回展「沖縄県埋蔵文化財センター20年の歩み」                                     | 令和元年2月10日～2月27日    |
|                |   |                    |                |   | 12月20日             |

① 新型コロナウイルス感染症対応のため施設閉鎖変更、一時休館（4月10日～5月14日）

② 新型コロナウイルス感染症対応のため施設閉鎖変更

# 【文化講座一覧①】

| 年度             | 日程   | テーマ                     | 講師          | 開催日 |
|----------------|--|-------------------------|-------------|-----|
| 平成12<br>(2000) | 第1回 沖縄が語る先史時代の沖縄                           | 紀吉義一(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成12年8月19日  |     |
|                | 第2回 京での出土した貢賄陶からみた大交易時代                    | 島井周作(那覇大学文芸部教授)         | 平成12年3月26日  |     |
|                | 第3回 墓葬文化財の活用                               | 白崎義一(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課長) | 平成13年5月26日  |     |
|                | 第4回 戦争跡詳解分布調査の概要                           | 池田信史(那覇大学文芸部助教)         | 平成13年8月11日  |     |
| 平成13<br>(2001) | 第5回 土器が語る先史時代の沖縄                           | 川元茂哉(沖縄県立埋蔵文化財センター主事)   | 平成13年11月3日  |     |
|                | 第6回 グスク研究の現状と課題                            | 紀吉義一(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成14年2月2日   |     |
|                | 第7回 中心のグスクめぐり                              | -                       | 中止          |     |
|                | 第8回 戰争研究から考える沖縄の戦争遺跡                       | 池田信史(那覇大学文芸部助教)         | 平成14年6月15日  |     |
| 平成14<br>(2002) | 戦争遺跡(本島北部地区)の分布状況                          | 川元茂哉(沖縄県立埋蔵文化財センター主事)   | 平成14年8月8日   |     |
|                | 第9回 沖縄諸島における都城の歴史                          | 土屋清志(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課)  | 平成14年9月14日  |     |
|                | 第10回 西表島(南西諸島等学校教諭)                        | 道山正昭(名古屋大学文芸部教授)        | 中止          |     |
|                | 第11回 本島中部の都城めぐり                            | 宮城信次(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成14年11月30日 |     |
| 平成15<br>(2003) | 復元後 3 丁前の舟形墳調査                             | 豊原義一(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成15年2月1日   |     |
|                | 第13回 沖縄の近世古文書に関する講座~久米島・ヤッチのガマの事例を中心に~     | 島井周作(那覇大学文芸部教授)         | 平成15年2月1日   |     |
|                | 第14回 沖縄考古学の最新の動向                           | 森木和也(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課員) | 平成15年7月12日  |     |
|                | 第15回 現代先史時代の見立見~古田遺跡にみる古代人の足跡~             | 木下大司(那覇大学文芸部教授)         | 平成16年1月10日  |     |
| 平成16<br>(2004) | 第16回 発掘調査速報2004報告会                         | 片野伸彦(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成16年8月14日  |     |
|                | 第17回 沖縄県内出土の船形陶器                           | 新間義一(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課員) | 平成16年11月13日 |     |
|                | 第18回 石碑からみた琉球の交差                           | 宮城信次(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課員) | 平成16年1月22日  |     |
|                | 第19回 発掘調査速報2005                            | 紀吉義一(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課員) | 平成17年8月13日  |     |
| 平成17<br>(2005) | 第20回 沖縄県民時代中期のミスティー                        | 山口正昭(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成17年11月12日 |     |
|                | 第21回 グスクについての話                             | 山口正昭(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成18年1月21日  |     |
|                | 第22回 発掘調査速報2006                            | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成18年7月29日  |     |
|                | 第23回 球体の出土遺工品について                          | 大庭信重(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成18年10月28日 |     |
| 平成18<br>(2006) | 第24回 首里城跡出土陶器群の近世の成層                       | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成19年1月20日  |     |
|                | 第25回 中国福建の青白釉陶器と流域へ宋・元代を中心へ~               | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成19年5月19日  |     |
|                | 第26回 多和田淳厚先生誕辰百周年記念シンポジウム「沖縄考古学の現在と課題」     | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成19年6月3日   |     |
|                | 第27回 発掘調査速報2007                            | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成19年6月3日   |     |
| 平成19<br>(2007) | 第28回 多和田淳厚先生発見の道路について                      | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成19年10月6日  |     |
|                | 第29回 今傾城と首里城跡出土の陶器について                     | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成20年1月26日  |     |
|                | 第30回 発掘調査速報2008                            | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成20年8月2日   |     |
|                | 第31回 原始人の知恵と工夫、天然素材(貝殻・骨・角・牙)の活用について       | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成20年10月4日  |     |
| 平成20<br>(2008) | 第32回 首里城跡の出土品「土からくつられた緑の宝石『小型青磁』」開港文化講座    | 大庭義二(那覇大学文芸部講師)         | 平成21年1月24日  |     |
|                | - 特別文化講座「今明かされる先史沖縄へ考古学・人類学の最新成果           | 金城信信(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課長) | 平成21年3月7日   |     |
|                | -  | 片野伸彦(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課員) | 平成21年3月7日   |     |
|                | 第33回 発掘調査速報2009                            | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成21年8月22日  |     |
| 平成21<br>(2009) | 第34回 海に纏る琉球王国の歴史~沖縄県の水中文化遺産~               | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成21年8月22日  |     |
|                | 第35回 江戸時代の陶器からみた薩摩と琉球                      | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成21年10月3日  |     |
|                | 第36回 明治の朝貢体制・東アジアの国際秩序                     | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成22年1月23日  |     |
|                | 第37回 これまでが道筋か ここまでが日本か~奄美考古学からみた新たな視点~     | 新間義一(沖縄県立埋蔵文化財調査室)      | 平成22年2月6日   |     |
| 平成22<br>(2010) | 第38回 発掘調査速報2010その1                         | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成22年7月24日  |     |
|                | 第39回 発掘調査速報2010その2                         | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成22年8月14日  |     |
|                | 第40回 山に残された歴史~発見されたやんばるの生業~                | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)  | 平成22年9月4日   |     |
|                | 第41回 センサー設立10周年記念文化講座~琉球列島の先史時代~           | 安部信彦(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成22年10月23日 |     |
| 平成23<br>(2011) | 第42回 センサー設立10周年記念文化講座~後嘉久原道からみたグスク時代以前の沖縄~ | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成22年11月22日 |     |
|                | 第43回 沖縄王朝が守護した道                            | 森吉義一(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課長) | 平成23年1月26日  |     |
|                | 第44回 首里城跡の内食跡跡出土の金属製品について                  | 金城信信(沖縄県立埋蔵文化財センター調査課長) | 平成23年2月5日   |     |
|                | 第45回 世界遺産のグスクについて                          | 喜屋武利(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)   | 平成23年2月12日  |     |

## 【文化講座一覧②】

| 年度                           | 回数   | テーマ  | 講師                  | 開催日 |
|------------------------------|--|--|---------------------|-----|
| 第46回                         | 発掘調査速報2011その1  | 新規里・山本正司(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                                | 平成23年7月23日          |     |
| 第47回                         | 発掘調査速報2011その2  | 大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>片桐千尋(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)         | 平成23年8月20日          |     |
| 第48回                         | 権文人の世界   | 仲原宜宣(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                                   | 平成23年8月20日          |     |
| 平成23<br>(2011)               | 第49回 喜連城内の出土品と東南アジアと琉球－関連文化講座  | 渋谷尚吉(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>金城謙(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)          | 平成24年1月28日          |     |
| 第50回                         | 聖城へのアプローチ－考古学から何が見えてきたのか～  | 小林謙(国学院大學教授)   | 平成23年10月22日         |     |
| 第51回 古い地原民宿・下田原民宿出土品 関連文化講座  | 井上義典(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>佐伯良子(沖縄市立博物館)                                  | 平成24年1月28日   |                     |     |
| 第52回 発掘調査速報2012その1           | 夏宮利一(沖縄市立博物館)  | 平成24年2月12日   |                     |     |
| 第53回 発掘調査速報2012その2           | 大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成24年3月8日  |                     |     |
| 平成24<br>(2012)               | 第54回 中国陶器の生産・流通・消費   | 山本正司(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>上村理(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)           | 平成24年3月10日          |     |
| 第55回 発掘調査速報2013その1           | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成24年4月16日   |                     |     |
| 第56回 発掘調査速報2013その2           | 大畠順平、合田洋子(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>山本正司(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                     | 平成24年5月18日   |                     |     |
| 平成25<br>(2013)               | 第57回 自保半田洞穴遺跡講演会   | 近石洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>金沢洋(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)            | 平成24年1月26日          |     |
| 第58回 自保半田洞穴遺跡講演会(講座)         | 近石洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                            | 平成25年8月31日   |                     |     |
| 第59回 発掘調査速報2014その1           | 喜田信也、金城謙(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>仲原宜宣、喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                 | 平成25年9月21日   |                     |     |
| 平成26<br>(2014)               | 第60回 発掘調査速報2014その2   | 大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                                    | 平成26年1月25日          |     |
| 第61回 白保半田洞穴遺跡講演会             | 宮城利一(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>仲原宜宣(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>山本正司(沖縄県立埋蔵文化財センター主任) | 平成27年1月24日   |                     |     |
| 第62回 発掘調査速報2015その1           | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>仲原宜宣、喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                      | 平成27年6月18・20日  |                     |     |
| 第63回 発掘調査速報2015その2           | 仲原宜宣、喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>宮城利一(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                      | 平成27年11月22日  |                     |     |
| 平成27<br>(2015)               | 第64回 ふたつの中城跡踏査   | 山本正司(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                                    | 平成28年1月29日          |     |
| 第65回 発掘調査速報2016              | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成28年6月6日  |                     |     |
| 平成28<br>(2016)               | 第66回 文化財を復興の力へ   | 仲原宜宣、喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>宮城利一、大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター主任) | 平成28年6月11日          |     |
| 第67回 喜連城内の出土品と「憧れの青花」 関連文化講座 | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成28年6月15日   |                     |     |
| 第68回 沖縄戦の戦争遺跡「記憶」との対話を求めて    | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成28年7月1日  |                     |     |
| 第69回 発掘調査速報2017その1           | 金城謙、大畠順平、吉川洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>辻川博(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                   | 平成28年8月5日  |                     |     |
| 平成29<br>(2017)               | 第70回 発掘調査速報2017その2   | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)                                    | 平成28年8月12日          |     |
| 第71回 京の内跡出土品と過ごした日々          | 仲原宜宣(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成29年3月31日   |                     |     |
| 第72回 発掘調査速報2018その1           | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成29年4月4日  |                     |     |
| 第73回 発掘調査速報2018その2           | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成29年8月12日   |                     |     |
| 平成30<br>(2018)               | 第74回 沖縄県における水中遺跡の調査研究と保存活用   | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>井川千咲(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)          | 令和元年6月29日           |     |
| 第75回 御旗津跡で洗浄した圓筒船の調査と研究      | 片桐千尋、斎藤力(沖縄県立埋蔵文化財センター主任専門員)<br>中西昭彦(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                   | 令和元年6月29日  |                     |     |
| 第76回 航跡遺跡出土品洋洋の説             | 片桐千尋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>東村裕子(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                          | 平成30年1月17日   |                     |     |
| 第77回 大航海時代の琉球と日本             | 斎藤力(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)   | 平成30年1月22日   |                     |     |
| 第78回 みんなで学ぼう戦争遺跡             | 大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)  | 平成31年3月23日   |                     |     |
| 第79回 発掘調査速報2019              | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>井川千咲(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                          | 令和元年8月10日  |                     |     |
| 令和元<br>(2019)                | 第80回 審り出された戦前の沖縄－前年の発掘調査Ⅰ－   | 喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>吉川洋(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)           | 令和元年11月2日           |     |
| 第81回 星り出された戦前の沖縄－前年の発掘調査Ⅱ－   | 吉川洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>内岡聰(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                            | 令和元年11月9日  |                     |     |
| 第82回 星り出された戦前の沖縄 記念講演会       | 吉川洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)<br>喜田信也(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)                           | 令和元年11月30日   |                     |     |
| 第83回 琉球文化の歩み、喜連正則・喜連正則の飛昇調査  | 上原洋(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)   | 令和元年6月20日  |                     |     |
| 第84回 発掘調査速報2020              | —  | 中止   |                     |     |
| 令和2<br>(2022)                | 第85回 沖縄戦埋蔵文化財センター開所20周年記念展 琉球文化財センター<br>20年の歩み、関連文化講座                    | 大畠順平(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)<br>木曾三郎(沖縄県立埋蔵文化財センター専門員)         | 令和2年11月7日<br>(開催予定) |     |

## 【体験学習一覧】

| 年度         | テーマ                                 | 講師     | 開催日                       |
|------------|-------------------------------------|--------|---------------------------|
| 平成12（2000） | 児童生徒親子体験学習<br>「縄文土器の生活土器を作ろう！2・3・J」 | 比嘉賀盛   | 平成12年8月19・20日、9月3日        |
| 平成13（2001） | 夏休み親子古代体験学習「土器作り」                   | センター職員 | 平成13年8月4・5・19日            |
| 平成14（2002） | 夏休み親子古代体験学習「土器作り」                   | センター職員 | 平成14年8月3・4・18日            |
| 平成15（2003） | 夏休み親子宿泊体験教室「原始生活体験」                 | センター職員 | 平成15年7月24日、8月2・3日         |
| 平成16（2004） | 親子体験教室「原始生活体験」                      | センター職員 | 平成16年7月24日、8月7日           |
| 平成17（2005） | 親子体験教室「原始古代の生活」                     | センター職員 | 平成17年7月23・24日、8月7日        |
| 平成18（2006） | 第1回火おこしチャレンジオン大会                    | センター職員 | 平成17年10月2・16日             |
| 平成19（2007） | 体験学習「原始人の技（わざ）～石器を作り、使ってみよう～」       | センター職員 | 平成18年8月13日                |
| 平成20（2008） | 体験学習「原始人の技（わざ）～石器を作り使ってみよう～」        | センター職員 | 平成19年7月29日                |
| 平成20（2008） | 体験学習「原始人の技（わざ）～石器を作り使ってみよう～」        | センター職員 | 平成19年8月12日                |
| 平成21（2009） | 体験学習「先始人の技（わざ）アケセサリー作り」             | センター職員 | 平成20年8月23日                |
| 平成22（2010） | 体験学習「先始人の技（わざ）火を起こそう！」              | センター職員 | 平成20年11月15日               |
| 平成23（2011） | 体験学習「先始人の技（わざ）アケセサリー作り」             | センター職員 | 平成21年8月8日                 |
| 平成24（2012） | 体験学習「先始人の技（わざ）アケセサリー作り」             | センター職員 | 台風の影響により中止                |
| 平成25（2013） | 体験学習「先史人の技～アケセサリー作り～」               | センター職員 | 平成24年8月4日                 |
| 平成26（2014） | 体験学習「先史人の技～アケセサリー作り～」               | センター職員 | 平成25年8月3日                 |
| 平成27（2015） | 体験学習「先史人の技～アケセサリー作り～」               | センター職員 | 平成26年8月2日                 |
| 平成28（2016） | 体験学習「先史人の技～ミニ土器作り～」                 | センター職員 | 平成27年8月1日                 |
| 平成29（2017） | 火おこし体験（琉大附属小学校）                     | センター職員 | 平成28年7月30日                |
| 平成30（2018） | 夏休み体験学習「焼かないミニ土器作り」                 | センター職員 | 平成29年1月16日                |
| 令和元（2019）  | 夏休み体験学習「土器作り」                       | センター職員 | 令和元年8月3日                  |
| 令和2（2020）  | 夏休み体験学習「土器作り」                       | センター職員 | 新型コロナウイルス沖縄県緊急事態宣言発令のため中止 |

## 【現地説明会一覧】

| 年度         | 遺跡名                    | 開催日              |
|------------|------------------------|------------------|
| 平成12（2000） | 新里元島上方台地遺跡             | 平成12年8月27日       |
| 平成13（2001） | 円覚寺跡、百里城跡、城の下石疊道       | 平成14年1月20日       |
| 平成14（2002） | ナカシダカリヤマの古墓群           | 平成15年3月8日        |
| 平成15（2003） | 大山富盛原第二遺跡              | 平成16年2月14日       |
| 平成20（2008） | 具志川島遺跡群                | 平成20年6月14日       |
|            | 真隅原山遺跡                 | 平成20年11月9日       |
| 平成21（2009） | 中城御殿跡（県立博物館跡地）         | 平成21年11月29日      |
| 平成22（2010） | 中城御殿跡（県立博物館跡地）         | 平成23年1月15日       |
|            | 白保竿根田原洞穴遺跡             | 平成22年12月18日      |
| 平成23（2011） | 中城御殿跡（県立博物館跡地）         | 平成23年12月18日      |
| 平成24（2012） | 中城御殿跡（県立博物館跡地）         | 平成24年12月9日       |
|            | 船越原遺跡                  | 平成25年9月14日       |
| 平成25（2013） | 白保竿根田原洞穴遺跡             | 平成25年11月30日      |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成25年12月21日      |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成26年2月15日       |
|            | 中城御殿跡（県立博物館跡地）         | 平成26年12月14日      |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）※首里高校生対象   | 平成26年6月30日～7月18日 |
| 平成26（2014） | 東村跡                    | 平成26年9月20日       |
|            | 首里城跡（繼世門北地区）           | 平成26年11月30日      |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成27年1月18日       |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成27年2月24日       |
| 平成27（2015） | 中城御殿跡（首里高校内）※首里高校職員対象  | 平成27年4月28日       |
|            | 円覚寺跡、真珠道跡              | 平成28年9月24日       |
| 平成28（2016） | 大嶺村跡                   | 平成28年6月19日       |
|            | 白保竿根田原洞穴遺跡             | 平成28年7月2日        |
| 平成29（2017） | 首里当蔵旧水路、中城御殿跡（県立博物館跡地） | 平成29年12月23日      |
| 平成30（2018） | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成30年4月14日       |
|            | 中城御殿跡（首里高校内）           | 平成31年3月2・9日      |

## 【出前授業一覧】

| 年度          | 学校・団体名  | 授業内容  | 開催日  |
|-------------|---|---|--|
| 平成13 (2001) | 若狭小学校6年生<br>那覇市立石橋小学校   | 火おこし体験<br>沖縄の貝塚時代   | 平成13年 7月21日<br>平成26年 5月12・13日  |
| 平成26 (2014) | 沖縄県立本部高等学校<br>沖縄県立北谷高等学校<br>沖縄県立那覇国際学校<br>沖縄県立読谷高等学校<br>宜野湾市立大山小学校<br>沖縄県立読谷高等学校<br>平成27年度グローバル・リーダー育成海外研修修業<br>事業「アメリカ高等教養体験修業」出席者オーラン<br>ティーション | 貝塚時代の沖縄<br>沖縄の歴史<br>アジアの中の琉球<br>琉球王国時代の宋華<br>先史時代の沖縄<br>アジアの中の琉球<br>アジアの中の琉球 ～沖縄文化、歴史～  | 平成26年11月10日<br>平成27年 1月22日<br>平成27年 2月 6日<br>平成27年 4月23日<br>平成27年 5月12日<br>平成27年 6月11日<br>平成27年 7月 5日                                |
| 平成27 (2015) | 宜野湾市立図書館<br>糸満市立糸満中学校   | 貝殻を使って物作り<br>旧石器時代と新石器時代～ふれながら学ぼう。土器や<br>石器～  | 平成27年 8月 6・ 7日<br>平成27年11月 4日  |
|             | 那覇市立石橋小学校<br>沖縄県立宮古高等学校<br>平成27年度グローバル・リーダー育成海外研修修業<br>事業「沖縄県立那覇高等学校 海外研修プログラム」出席者オーラン<br>ティーション  | 手のはたらき～手によってつくられた道具や技～<br>先島諸島の先史時代とアジアの中の琉球<br>アジアの中の琉球  | 平成27年11月18日<br>平成27年12月21日<br>平成28年 1月23日  |
| 平成28 (2016) | 沖縄県立北部農林高校<br>沖縄県立大山小学校<br>沖縄県立球陽高等学校<br>沖縄県立コザ高等学校<br>沖縄県立那覇高等学校<br>NPO法人ライフサポートささえ会<br>沖縄県立八重山高等学校2年生<br>竹富町中学校<br>沖縄県立伊良部高等学校                  | 沖縄の先史時代<br>沖縄の先史時代<br>沖縄の先史時代、琉球王国の歴史<br>沖縄の先史時代、琉球王国の歴史<br>戦争遺跡とは何か<br>沖縄の先史時代<br>八重山の土器<br>沖縄の先史時代～出土物から貝塚時代に触れよう～<br>沖縄の先史時代、琉球王国の歴史 | 平成28年 4月19日<br>平成28年 4月28日<br>平成28年 5月10日<br>平成28年 6月28日<br>平成28年 7月 8日<br>平成28年 8月 2日<br>平成28年 12月20日<br>平成29年 1月24日<br>平成29年 1月27日 |
| 平成29 (2017) | 西原町立西原小学校<br>沖縄県立球陽高等学校<br>竹富町立波照間小中学校<br>恩納村立安富佐小学校  | 沖縄（沖縄島）の貝塚時代<br>発掘調査でわらわかる沖縄本島の歴史<br>発掘調査でわらか分かる波照間の歴史<br>古代体験 火をつくろう！！   | 平成29年 5月16日<br>平成29年 6月 6日<br>平成29年 9月15日<br>平成29年 12月 8日  |
| 平成30 (2018) | 渡嘉敷村立阿波連小学校<br>西原町立西原小学校<br>沖縄県立球陽高等学校<br>南城村立知念小学校<br>竹富町立西表小中学校<br>私立豊崎カトリック小学校<br>西原町立西原小学校  | 沖縄（沖縄島）の先史時代～貝塚時代<br>沖縄（沖縄島）の先史時代～貝塚時代<br>発掘調査でわらか分かる琉球の歴史<br>沖縄（沖縄島）の貝塚時代<br>沖縄（沖縄島）の歴史<br>沖縄の貝塚時代<br>沖縄の貝塚時代                          | 平成30年 4月16日<br>平成30年 5月15日<br>平成30年 5月15日<br>平成30年 5月22日<br>平成30年 5月29日<br>平成30年 12月 6日  |
| 令和元 (2019)  | 沖縄県立普天間高等学校<br>浦添市立泡瀬川小学校<br>沖縄県立護美高等学校   | 沖縄県の戰争遺跡<br>沖縄県の戰争遺跡  | 令和2年 5月24日<br>令和2年 6月 4日<br>令和2年 6月 4日<br>令和2年 6月19日   |

## 【普及活動の様子】



団体見学の様子



出前授業の様子



夏休み体験学習の様子



文化講座の様子

## 【来所者数一覧】

| 年度         | 小学生以下  | 中学生   | 高校生   | 大学生   | 一般     | 合計     | 施設利用   | 総計      |
|------------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 平成12（2000） | 582    | 79    | 148   | 268   | 2,059  | 3,136  | 1,743  | 4,879   |
| 平成13（2001） | 1,580  | 299   | 237   | 233   | 3,455  | 5,804  | 1,122  | 6,926   |
| 平成14（2002） | 1,895  | 219   | 55    | 416   | 2,624  | 5,209  | 1,128  | 6,337   |
| 平成15（2003） | 2,609  | 128   | 164   | 247   | 1,677  | 4,825  | 784    | 5,609   |
| 平成16（2004） | 2,453  | 186   | 339   | 296   | 1,482  | 4,756  | 654    | 5,410   |
| 平成17（2005） | 3,151  | 28    | 316   | 438   | 1,637  | 5,570  | 680    | 6,250   |
| 平成18（2006） | 1,986  | 73    | 228   | 330   | 1,412  | 4,029  | 604    | 4,633   |
| 平成19（2007） | 1,944  | 50    | 60    | 243   | 2,533  | 4,830  | 549    | 5,379   |
| 平成20（2008） | 1,800  | 161   | 116   | 245   | 2,828  | 5,150  | 733    | 5,883   |
| 平成21（2009） | 1,606  | 136   | 116   | 97    | 2,966  | 4,921  | 703    | 5,624   |
| 平成22（2010） | 1,511  | 376   | 221   | 169   | 4,168  | 6,445  | 734    | 7,179   |
| 平成23（2011） | 1,178  | 78    | 191   | 174   | 2,566  | 4,187  | 1,075  | 5,262   |
| 平成24（2012） | 1,574  | 40    | 201   | 99    | 2,255  | 4,169  | 1,462  | 5,631   |
| 平成25（2013） | 1,551  | 49    | 58    | 230   | 2,122  | 4,010  | 3,264  | 7,274   |
| 平成26（2014） | 1,815  | 48    | 58    | 366   | 2,467  | 4,754  | 1,482  | 6,236   |
| 平成27（2015） | 1,136  | 99    | 209   | 379   | 1,775  | 3,598  | 822    | 4,420   |
| 平成28（2016） | 1,432  | 128   | 141   | 220   | 2,294  | 4,215  | 1,197  | 5,412   |
| 平成29（2017） | 1,649  | 171   | 343   | 610   | 5,355  | 8,128  | 1,510  | 9,638   |
| 平成30（2018） | 1,363  | 119   | 250   | 529   | 3,016  | 5,277  | 953    | 6,230   |
| 令和元（2019）  | 1,136  | 68    | 64    | 312   | 1,581  | 3,161  | 907    | 4,068   |
| 累計         | 33,951 | 2,535 | 3,515 | 5,901 | 50,272 | 96,174 | 22,106 | 118,280 |

## 【団体見学件数一覧】

| 年度         | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 大学  | 一般・その他 | 合計  |
|------------|-----|-----|------|-----|--------|-----|
| 平成12（2000） | 9   | 4   | 4    | 0   | 2      | 19  |
| 平成13（2001） | 19  | 8   | 7    | 0   | 20     | 54  |
| 平成14（2002） | 26  | 4   | 2    | 12  | 17     | 61  |
| 平成15（2003） | 35  | 5   | 6    | 4   | 14     | 64  |
| 平成16（2004） | 26  | 2   | 4    | 6   | 7      | 45  |
| 平成17（2005） | 29  | 1   | 3    | 7   | 8      | 48  |
| 平成18（2006） | 22  | 1   | 2    | 7   | 9      | 41  |
| 平成19（2007） | 21  | 2   | 1    | 4   | 11     | 39  |
| 平成20（2008） | 16  | 2   | 3    | 5   | 10     | 36  |
| 平成21（2009） | 16  | 2   | 2    | 3   | 18     | 41  |
| 平成22（2010） | 9   | 9   | 4    | 3   | 6      | 31  |
| 平成23（2011） | 9   | 1   | 3    | 6   | 9      | 28  |
| 平成24（2012） | 9   | 1   | 0    | 8   | 15     | 33  |
| 平成25（2013） | 19  | 0   | 1    | 4   | 16     | 40  |
| 平成26（2014） | 14  | 0   | 0    | 8   | 10     | 32  |
| 平成27（2015） | 11  | 0   | 2    | 6   | 8      | 27  |
| 平成28（2016） | 10  | 0   | 2    | 5   | 19     | 36  |
| 平成29（2017） | 11  | 0   | 8    | 8   | 18     | 45  |
| 平成30（2018） | 9   | 2   | 8    | 10  | 12     | 41  |
| 令和元（2019）  | 9   | 0   | 2    | 7   | 7      | 25  |
| 累計         | 329 | 44  | 64   | 113 | 236    | 786 |

沖縄県立埋蔵文化財センター開所 20 周年記念展

**埋蔵文化財センター 20 年の歩み**

令和 2 (2020) 年 10 月 27 日発行

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751/8752 FAX 098-835-8754

関連文化講座のお知らせ **定員 50 名**  
要予約 ⇒ 098-835-8752  
(受付期間 11/4 ~ 11/6)

日 時： 11/7（土）13:30～15:15

会 場： 当センター 研修室

講演①： 金城 龜信 「センター開所からの 20 年」

講演②： 大城 慧 「沖縄の鉄器文化～グスク時代出土の考古資料から～」

講演③： 盛本 黙 「動物考古学のはなし」

新型コロナウイルス感染予防にご協力ください。詳細は当センターホームページで。



沖縄県立埋蔵文化財センター ☎903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 TEL:098-835-8751/8752

◆ 開所時間 9:00～17:00（入所は 16:30 まで）

◆ 休 所 日 月曜日（国民の休日・慰霊の日にあたる場合は振替） 国民の休日（こどもの日・文化の日を除く）

年末年始（12/28～1/4） 慰霊の日（6/23） ※その他、臨時休所あり。